



東京理科大学

TOKYO UNIVERSITY OF SCIENCE

教育支援機構 教育 DX 推進センター

2022 年度活動報告書

## 資料集

- 学校法人東京理科大学 中期計画 2026（2022～2026 年度）……2
- 学修状況アンケート ……………17
- 学習実態調査（新入生対象アンケート）……………19
- 授業改善のためのアンケート ……………25
- 卒業予定者対象アンケート ……………48

# 学校法人東京理科大学 中期計画 2026

(2022～2026 年度)

2022 年 3 月 策定

---

---

## 【目次】

1. はじめに	2
2. TUS VISION 150	2
3. 中期計画 2021（2019～2021 年度）とその振り返り	3
4. 現在の社会情勢と大学が向き合う課題の整理	5
5. 本学の歴史と教育研究の特色の分析	5
6. 本学発展の基本戦略	7
7. 中期計画 2026 の具体的な内容	7
8. 本学で継続的に取り組む重要事項	13
9. おわりに	14

## 1. はじめに

東京理科大学は 1881 年に創立し、2021 年に創立 140 周年を迎えたが、さらに 10 年後の創立 150 周年のあるべき姿を示した「TUS VISION 150」の下、より一層の発展に向け、2022～2026 年度の 5 年間で実施する施策として「中期計画 2026」を策定した。本書では、先ず長期ビジョン「TUS VISION 150」をあらためて述べた上で、「中期計画 2026」の前段で実施した「中期計画 2021」とその振り返りについて示した。次に、現在の社会の変化や多様化する大学への要請に応えるために、社会情勢とそれに基づく大学が有する課題を整理し、さらに本学の歴史と教育及び研究の強み・弱みを分析し、本学の伝統や長所短所を踏まえて実施すべき課題を基にした本学発展のための基本戦略を提起した。その後、「中期計画 2026」の具体的な課題と取り組みについて概要を記した。「TUS VISION 150」の最初のマイルストーンとなった「中期計画 2021」に続き、次のマイルストーンとなる 5 年後の「中期計画 2026」の目標の達成に向けて本書に示す取り組みを着実に進め、「TUS VISION 150」の実現を確実なものとしていく。

## 2. TUS VISION 150

現在、世界は急速にグローバル化し、産業やビジネスは国境を越えて展開されている。その一方、深刻な環境破壊の広がりも指摘されており、その解決には地球規模での取り組みが必要とされている。このような時代にあつて、本学では、創設時に掲げられた「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」という建学の精神を、さらに広く世界に展開するために、英語では”*Building a better future with Science*”と表現している。技術革新の原動力となりうる人材の育成、高度な教育研究及びその成果の創出を通して「科学技術を以てより良い未来を拓く」、その使命感を持ち、地球規模の課題に取り組み、科学技術の発展に寄与し、国際社会に貢献する大学であり続けることが、21 名の創設者たちの熱き想いを引き継ぎ、本学の存在意義を高めることにつながると確信している。

本学は、2031 年に創立 150 周年を迎えるが、その時点での本学のあるべき姿を示したものが、以下に示す「TUS VISION 150」(2017 年度制定)である。ここでは、「日本の発展を支えてきた理科大」から「世界の未来を拓く TUS」へ発展することを宣言している。

### TUS VISION 150 ～2031 年(創立 150 周年)の理科大の姿～

- 日本の先進技術を駆使しイノベーション創出に貢献する多くの人材を育成
- 科学技術、経営、教育の分野で世界レベルのリーダーとして活躍できる人材を供給
- 人類への貢献をめざし、高い実践力と忍耐力を持ってたゆみなく課題の解決に挑む人材を育む環境
- 基礎研究から応用研究まで幅広い分野に亘って世界をリードする研究拠点
- 学際的コミュニティの中で多様性をもった自由闊達な議論を求め、世界各国から人材が集う拠点
- 世界のいたる所で社会に貢献する理窓会メンバーである校友の強固なネットワークの中核

本学が「世界の未来を拓く TUS」へ発展するために、持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals) に代表される世界的な課題に果敢に取り組み、その研究の中でイノベーション創出の意欲と能力を兼ね備えた人材、世界で活躍できる人材を育成する教育研究の場を実現していく。そのための不断の取り組みにより、10 年後には本学が強みとする科学技術分野において世界に冠たる研究拠点として認知されるとともに、研究を通じて世界の持続的な発展に貢献することを目指す。この取り組み

みを通じて、世界中から広く学生や研究者が集い、また世界のいづれでも活躍できる能力を習得し得る大学を実現する。同時に、学生、教職員、同窓生等すべての大学関係者が、より一層の「愛校心」と「誇り」を抱くことができるような施策、社会からの大きな期待に常に応えることができるような施策を、強力に進めて行く。

### 3. 中期計画 2021 (2019～2021 年度) とその振り返り

「TUS VISION 150」の実現に向けたマイルストーンとして、2019 年度から 2021 年度の間に実行すべき施策を「中期計画 2021」としてまとめたが、そこでは教学系と法人系に分けて計画を策定し、その実現に向けて協力しながら施策を実行してきた。その主な取り組みと成果を振り返った上で、引き続き取り組むべき課題を表 1 のとおりまとめた。「中期計画 2021」については、概ねその目標を達成できたものと考えているが、今後も継続して取り組むべき課題、新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延等により、計画を策定した時にはまったく想定していなかった新たな課題も発生している。

表 1 中期計画 2021 での主な取り組みと成果・今後に向けた課題

教学系			
カテゴリー	取り組み	主な成果	課題
教育	グローバル人材育成のための教育プログラムの開発・推進	「TUS くさび形教養教育カリキュラム」と「CEFR に基づく英語能力達成度測定」を導入した。	新実力主義を体現する教育の一層の発展（SDGs 関連科目の開講等）
	特色ある理工系教育プログラムの実施	「データサイエンス教育プログラム」を全学的に整備した。また、コロナ禍への対応を含め教育 DX を推進した。	DX に対応した新しい教育スタイルの確立 データサイエンス教育のさらなる充実
	教育の質保証に向けた方策の充実	学長及び大学質保証推進委員会を中心とする内部質保証の推進を担う全学的な組織を整備した。機関別認証評価を受審し、内部質保証体制が特記すべき優れた事項の「長所」との評価を得た。	教育の質の継続的な改善
	教育の質向上のための教育課程の整備	科目ナンバリングを全学導入し、教育課程の体系性の理解促進と国際通用性を高めた。	教育課程の継続的な見直しと改善
研究	研究における世界的プレゼンスの向上	特徴的研究を発掘・育成するため、宇宙・水等の特定のテーマを重点的に支援した。海外への積極的なプレス発信を実施した。	社会課題に対応した研究の拠点化 外部機関との連携強化 国内外へのさらなる情報発信の強化
	外部資金獲得の増加	申請書のアドバイス制度等を充実させ、約 40 億円の外部資金を獲得した。また、社会連携講座制度を創設した。	社会連携・社会貢献のさらなる推進と活性化
	世界に通用する多様な研究人材の育成・獲得	「特別研究期間制度」を試行的に導入した。また、若手研究者研修制度を整備した。	研究時間確保のための業務の効率化や見直し、特別研究期間制度の拡大等の研究環境の整備

	研究環境・支援体制の整備	共同利用研究機器の戦略的運営や研究戦略・産学連携センターの機能強化に向けた検討を行った。	継続的な検討の実施
学生支援	学生支援体制の充実	学生カルテシステムの充実を図った。各種相談のオンライン化を進めた。	学生個々のニーズに対応した支援体制の構築
	多様な学生への支援策の充実	バリアフリー化を進めた。留学生に対する入国支援や新型コロナウイルス対策として奨学金制度を整備した。	キャンパスライフの質的向上に向けた支援 課外活動の充実を通じた人材育成の支援
国際化推進	学生の国際化	留学生増員に向け、広報活動等を充実させた。	学生の国際競争力を高めるための学修プログラムの確立
	教員の国際化	在外研究員制度を改善し、より利用しやすいものとした。	さらなる在外研究派遣人数増加に向けた支援
	教育研究環境の国際化	オンラインでインターナショナルラウンジを利用できるよう整備した。	海外教育研究機関との交流のさらなる推進
<b>法人系</b>			
<b>カテゴリー</b>	<b>取り組み</b>	<b>主な成果</b>	<b>課題</b>
	高い専門性と倫理観、優れた人間性を育む教育の推進	大学の「教育」への取り組みに対して、「特別教育研究費」を配分する支援を行った。	人間性を育む観点での「課外活動」への支援
	総合研究院・研究センターの機能強化による理科大ならではの研究拠点形成	理科大ならではの研究の推進と活性化を目的として、大学と協働して、総合研究院における各部門の支援を行った。	神楽坂、葛飾キャンパスにおける研究拠点形成のスペース確保
	新産業創生のための本学発ベンチャー支援の推進	起業希望の学生に対して、TEICの活動を中心に各種支援を行った。	起業意欲醸成のための取り組みの拡充
	次世代を見据えた教育カリキュラム編成と教育研究環境の充実	これからの時代に即した学部・学科再編計画を推進した。また、野田の新7号館及び新実験棟の竣工、各地区の通信ネットワークや映像・音響機器の強化等、施設・設備の充実を実現した。	教育研究環境のさらなる充実を目的とした各キャンパスの再構築、スマートキャンパスの実現
	本学が目指すグローバル化の推進とグローバルマインドの涵養	外国人留学生数の拡大、日本人学生の留学プログラムの拡充を実現した。	世界で活躍する人材支援、大学の認知度向上のための施策の実施
	本学の教育研究理念に共鳴する質の高い学生の確保	本学への入学意欲の高い指定校・公募制推薦入学者を安定して確保した。また、優秀な学生の進学を促すことを目的に奨学金給付対象者の拡充、2種類の冠奨学金を創設した。	高大連携の強化による勉学に強い意欲を持つ優秀な学生の継続的な確保
	リカレント教育の充実による社会人再教育	建築学科夜間主社会人コースの設置に加え、オープンカレッジ、理学部第二部長期	社会貢献・社会連携につながるリカレント教育のさらなる

	育の場の提供	修学制度、薬学研究科社会人学生コースの充実を実現した。	る充実
	財務基盤の継続的強化による教育研究環境のさらなる充実	収益構造の見直しに取り組み、運用に資する特定資産の積み増しと施設設備の充実に資する財務基盤の強化を実現した。	収益力強化に資する収入の多様化と財務基盤の安定強化

#### 4. 現在の社会情勢と大学が向き合う課題の整理

現在の世界情勢に目を向けると、地球環境保護の観点から、SDGs やカーボンニュートラル達成のためのソリューションが求められている。また、情報化社会の加速的な進展に伴い、データサイエンスやその応用が積極的に進められており、当該分野の教育及び人材育成への要望も一層高まっている。国内では、我が国の経済力に陰りが見えて久しく、研究・技術力の低下も顕在化している。また、少子高齢化の急速な進展に伴う様々な社会問題も深刻になり、あらゆる分野でのイノベーション創出が強く求められている。一方で、科学技術の基本構造として、真理の探究やディシプリンの深化に加えて、新しい価値の創造への要望が高まる中で、社会の発展に寄与することが大学にも強く求められている。さらに、科学技術の進歩や研究分野の展開の速度は日に日に増しており、現在の科学技術を支えることとともに、次の科学技術を創造することへの期待が高まっている。また、社会の変化に伴い社会が求める人材も大きく変化し、理工系人材の活躍の場も従来の技術系企業にとどまらず、非技術系企業を含めた幅広い分野での活躍が期待されている。これらを踏まえて人材育成とイノベーションを担う最高学府である大学における教育研究の在り方を考える時、上記の課題は、本学のみならず多くの大学が共通して向き合う課題である。しかし、問題解決に向けた取り組みはそれぞれの大学で異なるはずであり、そこに本学の「建学の精神」と理工系総合大学である本学ならではの「強み」を活かすべきと考える。

では、本学の教育研究の「強み」とは何か。その対にある「弱み」も含めてあらためて考えるにあたり、創設者たちの想いにも触れながら確認したい。

#### 5. 本学の歴史と教育研究の特色の分析

本学は、1881年、東京大学物理学科の卒業生を中心とした21名の青年たちによって、「東京物理学講習所」として創設された。創設者たちは、国や藩からの手厚い支援により最先端の教育を受けたことに並々ならぬ恩義を感じており、国家の近代化を進めるために理学は必要な学問であると信じ、自らの報恩の証を「理学の普及」という形で残すため行動を起こしたのである。

以来、「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」を建学の精神とし、東京物理学校を経て、我が国随一の理工系総合大学へと発展してきた。その間、戦前の師範学校や中等学校、戦後の中学・高校に数多くの優れた理数系教員を輩出し、我が国の教育に大きな貢献を果たした。また、高度経済成長期以降は、数多くの優秀な技術者や研究者を輩出し、「技術立国日本」の発展にも貢献している。

本学の教育方針は「**実力主義**」であり、この伝統に根差した確かな教育により、「学生を鍛える大学」として定評を得ている。「**実力主義**」については、「真に実力を身に付けた学生を卒業させる」という考えのもとで学年進級にあたり厳しい関門制度を敷いているが、単に進級が難しく卒業に要する年数が長い大学と捉えられかねない面もあったため、2020年度に「未来を拓く実力」として次のように再定義するとともに、2021年度には英語表記についても、“**Achieving Excellence**”という表現を制定し、本学の目指している教育に関する考え方を今の時代に即して明確に発信できる形とした。

「未来を拓く実力」とは ～新実力主義～

1. 幅広い教養、正しい倫理観を備え、人々や社会が求めることに対して使命感を持って応え、**世界の発展・持続に率先して貢献する高い志とノブレスオブリージュの精神**
2. 高い専門性とともに、その構築で培った論理的思考力とエビデンスにもとづく**科学的思考力**
3. グローバルで高度に専門化した社会において、多様な人々と積極的に交わり、専門分野の壁を越えて**共創できる力**
4. 自然や変化する社会の中から新たな問題を感じ、独自の視点で物事を捉え、柔軟な思考によって**新しい学問領域やイノベーションを創出する力**

研究面に関し、「自然・人間・社会とこれらの調和的発展のための科学と技術の創造 ～*Innovation in Science and Technology for Sustainable Development*～」を教育研究理念に掲げる本学では、他大学と比べ充実した教育研究費を配分することで教員の自由な発想に基づく多様な研究活動を支援しており、その結果として「研究力の高い私学」としての定評を得ている。その一方で、国内での理工系総合大学としての知名度は高いものの、人文社会系学部や医学部を有する大規模総合大学と比較すると、ブランド力をさらに向上させる必要がある。また、留学生比率や外国籍教員数などの指標からも、国際性の観点での評価は高いとは言えず、その改善が急がれる。図1は、2019年5月に「東京理科大学アドバイザー委員会」<sup>1</sup>において本学で今後検討すべき課題として外部有識者に指摘されたものである。これらはいずれも的を射たものであり、一部、例えば「重点研究分野の強化」や「データサイエンス教育・研究」等については改善に向けた取り組みを進めているが、最重要項目として中央に位置付けられている「理科大らしい特徴の構築・発信」と「シンボリックな施策」については、取り組みが十分には進められていない。

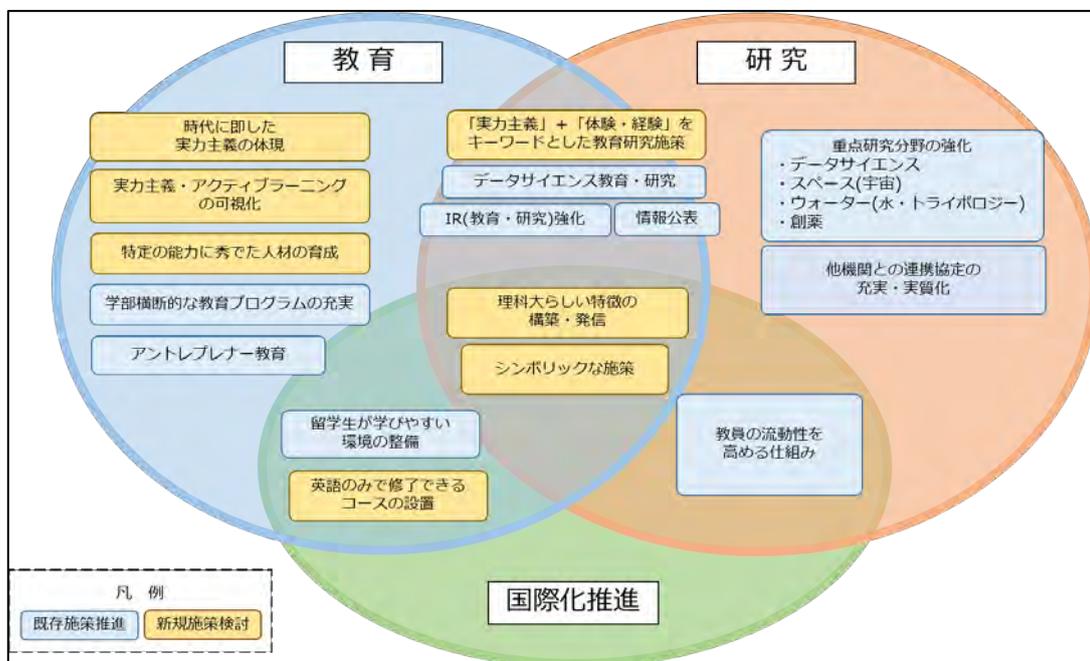


図1 外部有識者から指摘された本学で今後検討すべき課題 (2019年5月)

<sup>1</sup> 本学の大学運営に対し、多角的な視点から外部有識者に助言いただき、本学の強み・弱みを再認識し、今後の施策に活かすため、2018年10月に学長の下に設置。

## 6. 本学発展の基本戦略

これらを踏まえた上で、本学のさらなる発展に向けた次期中期計画（2022～2026年度）を策定するにあたっては、単に課題に対応するだけでなく、時代の変化や大学に対する社会の要請にも目を向け、これまで述べた本学の伝統や強みを活かす取り組みとすべきである。そして最も重要なのは、ビジョンを明確にするとともに、それを理事会及び教職員で共有し、組織一丸となって取り組むことである。図2は、「TUS VISION 150」のマイルストーンである「中期計画2026」の位置付けと主要な取り組みを図式化したものである。これまでに述べた内容を踏まえ、「実力主義」を継承・発展させ教育改革を行うことで、「社会を牽引するグローバル人材」を育成し、強みである「研究力」をさらに強化するための環境整備に取り組むことで、「人類・地球に資するモノやコト」を創出し、「世界の未来を拓く TUS」として貢献していく。また、理科大らしい特徴を構築・発信し、このような取り組みを行っている大学としての認知を高めることで、存在価値を揺るぎないものとし、学生や同窓生、教職員をはじめ、すべての本学の関係者の誇りにつなげていきたい。その実現に向けた種々の取り組みについて、次章に述べる。

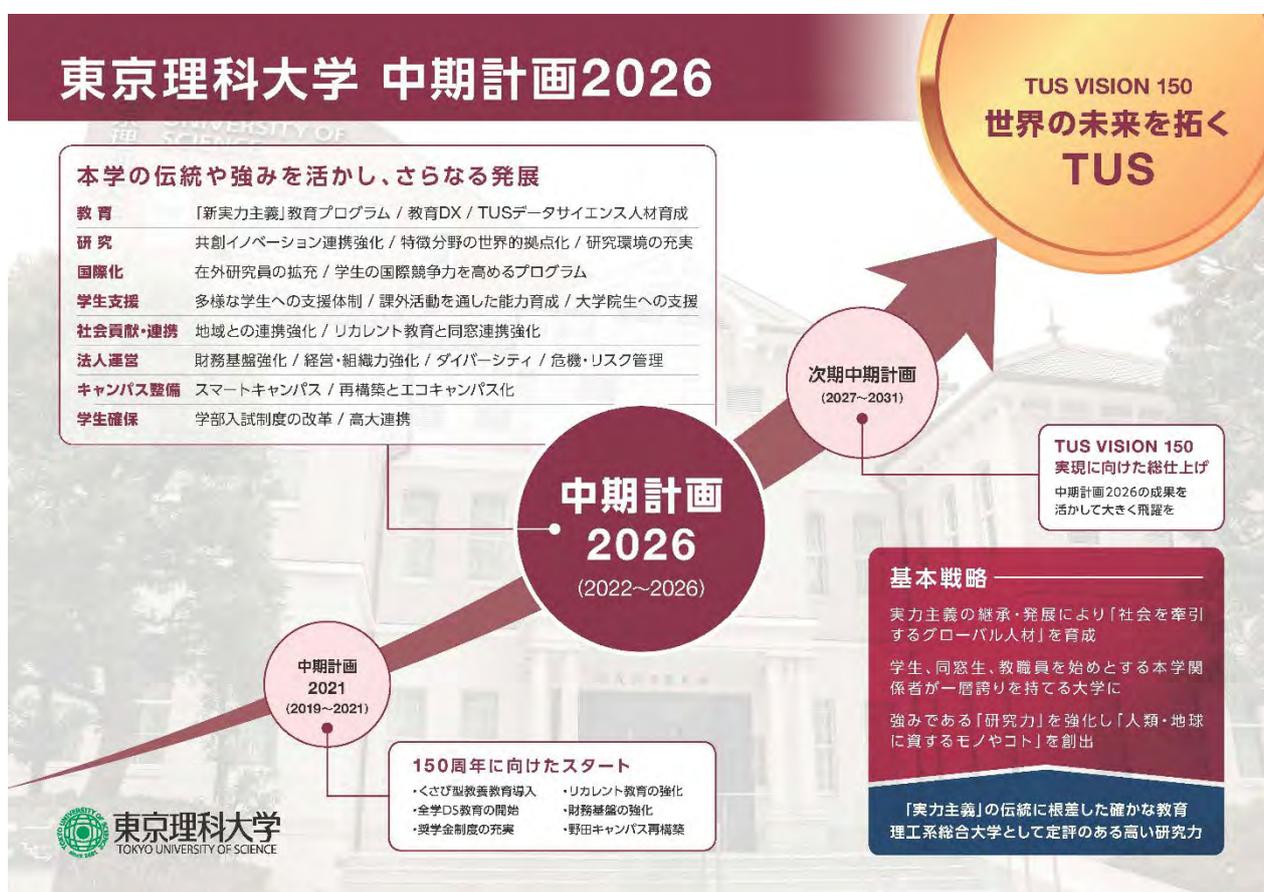


図2 「TUS VISION 150」の実現に向けた「中期計画2026」の位置付けと主要な取り組み

## 7. 中期計画2026の具体的な内容

「TUS VISION 150」の実現や新たに発生した様々な課題解決に向けた次期中期計画(中期計画2026)について、表2にその概要を示す。表2は①教育、②研究、③国際化、④学生支援、⑤社会貢献・連携、⑥法人運営、⑦キャンパス整備、⑧学生確保の8つのカテゴリーに分けて、今後5年間に全学で重点的かつ優先的に取り組むべき項目を示している。それぞれの内容について以下に概説する。

表 2 中期計画 2026 の概要

番号	カテゴリー	課題
①	教育	1. 世界の未来を拓く人材育成のための「新実力主義」教育プログラムの確立 2. 学びの質的転換を達成するための教育 DX の推進 3. 社会を牽引する TUS データサイエンス人材の育成
②	研究	1. 共創によるイノベーション創出を促進するための外部機関との連携強化 2. 特徴ある研究分野の世界的拠点化 3. 研究力向上のための研究環境・支援体制のさらなる充実と人材育成
③	国際化	1. 教員のグローバル化を促進するための在外研究員制度の拡充 2. 学生の国際競争力を高めるプログラム整備
④	学生支援	1. 多様な学生への個別最適化した支援体制の確立 2. 課外活動を通じたリーダーシップと挑戦力の育成 3. 大学院学生への支援の拡充
⑤	社会貢献・連携	1. キャンパスと地域との連携強化 2. リカレント教育支援と同窓との連携強化
⑥	法人運営	1. 財政基盤の強化 2. 経営・組織力の強化 3. 教職員のダイバーシティを拡充するための就労環境の改善 4. 危機管理体制の強化及びリスク管理意識の向上
⑦	キャンパス整備	1. スマートキャンパスの実現 2. キャンパス再構築及びエコキャンパス化の推進
⑧	学生確保	1. 学部入試制度の改革 2. 高大連携の推進

## ① 教育

新型コロナウイルス感染症禍でオンライン化とデジタルシフトの波が急激に世界を変えはじめたことで、社会はさらに複雑化している。また、地球環境の悪化や資源の枯渇、一定の周期で繰り返されるパンデミックなどについては長期的・継続的な対応が求められている。このような困難な時代に社会を牽引しさまざまな問題の解決に果敢に挑戦する人材を育成するため、以下の3つの項目に重点的に取り組む。

### ①-1 世界の未来を拓く人材育成のための「新実力主義」教育プログラムの確立

実力主義の再定義で掲げた資質・能力を育むため、学部から大学院にかけて効果的に編成された専門教育や教養教育カリキュラムの確立に加え、科学に根差したグローバル・コモンズ保全に関する教育を実施する。また、創設者たちの想いや矜持を伝える自校教育を充実させ、社会貢献に対する意識を高めるとともに、イノベーション力や共創力を高める領域横断型教育、デザインシンキング、システムシンキング等を涵養するための教育プログラムも整備する。

### ①-2 学びの質的転換を達成するための教育 DX の推進

デジタルシフトが急速に進む中、2022 年度からスタートする教育 DX を担う全学組織「教育 DX 推進センター」(TUS-CTLT)が中心となり、教育の在り方の検討と新しい教育方法の開発を進める。さらにこれらと並行して、AI を活用した個別最適化による自律学修システム、最先端デジタル技術を活用した効果的学修・教授法、学修到達度測定 WEB テストを整備する。

### ①-3 社会を牽引する TUS データサイエンス人材の育成

データサイエンス教育は広く行われているが、本学では、既存理論・方法を活用する人材だけでなく、データサイエンスの新たな応用展開を牽引できる TUS データサイエンス人材の育成も行う。具体的には、国が進める「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」(MDASH)に関し、リテラシーレベル、応用基礎レベルに対応した教育プログラムを整備するとともに、データサイエンスセンター(CDS)が中核となり、データサイエンスの新たな応用展開を牽引する人材育成のためのプログラムを整備する。

## ② 研究

「自然・人間・社会の調和的発展のための科学と技術の創造」を教育研究理念に掲げる本学にとって、世界の持続的発展に資する研究を推進することは重要な責務である。そこで、以下の3つの項目に重点的に取り組み、研究力向上に向けて研究環境をさらに充実させるとともに、他機関とも協力し社会課題に対応した先進的研究を推進できる体制を構築する。

### ②-1 共創によるイノベーション創出を促進するための外部機関との連携強化

これまで良好な協力関係を築いてきた理化学研究所、産業技術総合研究所、物質・材料研究機構、国立がん研究センター等の研究機関との人材交流や共同研究をより円滑に進めるとともに、人材育成も含めた産業界との連携を強化するため、クロスアポイントメント制度の構築や兼職基準の見直しを行う。併せて、機関共創による大型研究プロジェクトの獲得にも取り組み、組織間の教育研究を一元的に企画・支援する体制を構築する。また、海外の大学や研究機関との交流を促進するため、オンラインを活用した招へい教員制度を整える。

### ②-2 特徴ある研究分野の世界的拠点化

本学で行われている特徴ある研究分野を組織化し、他にはない独自の研究センター等とすることで、世界から研究者が集う研究拠点を目指す。具体的な候補として、「宇宙進出のための先端技術」を中核とするスペースシステム創造研究センター、「水の科学」に取り組むウォーターフロンティア研究センター、「カーボンニュートラル」の実現に貢献するエネルギー・環境に関する研究拠点、次世代の医薬品として期待されている「核酸医薬」に関する研究拠点等を想定するとともに、新たな研究分野の開拓に挑戦していく。

### ②-3 研究力向上のための研究環境・支援体制のさらなる充実と人材育成

教員にとって、優れた研究を推進するのに最も必要なものは、研究時間の確保である。そこで、「研究時間の創出」のため、学部学科等の運営業務の効率化の推進や授業科目数・時間の見直し等を行うことで、研究に専念できる時間を増加させる。また、現在試行的に運用している「特別研究期間制度」

---

を確立し、大きな発展の見込まれる教員について、授業時間や管理運営業務の負担を一定期間削減し研究に専念できるようにする。また、研究戦略・産学連携センターをはじめとする研究支援体制の機能強化を図る。さらに、優秀な研究者や博士人材の育成支援を行うことで研究大学としてのプレゼンスの向上を目指す。

### ③ 国際化

新実力主義で掲げた、「グローバルな社会において多様な人々と交わり共創できる力」を高めるために、以下の2つの項目に重点的に取り組む。

#### ③-1 教員のグローバル化を促進するための在外研究員制度の拡充

教員にとって、在外研究は単に研究を推進するだけでなく、海外研究者との親交を深め、世界の研究をリードする研究者の人的ネットワークにアクセスする意味でも非常に重要である。懸案であった派遣期間中の卒業研究や大学院生の指導について、リモートでの指導が可能となってきたこともあり、若手教員の派遣数の増加に向けて、現在の在外研究員制度を拡充する。

#### ③-2 学生の国際競争力を高めるプログラム整備

英語での成果発表の場は、学生にとって自らの国際競争力を高める非常に良い機会となる。修士課程や博士後期課程の学生に対しては、現在も国際会議発表に伴う経費支援を実施しているが、学部生も含めて英語でプレゼンテーションする機会を創出し、その能力開発を進める。そのために、海外大学との連携協定やオンライン学修プログラム等を活用し、英語プレゼンテーション指導のプログラム等を整備する。

### ④ 学生支援

多様な学生を受け入れ、全学生のキャンパスライフの質的向上を目指すとともに、次世代を担う指導者の人材を育成するため、以下の3つの項目に重点的に取り組む。

#### ④-1 多様な学生への個別最適化した支援体制の確立

個々の学生の状況を常に把握し、適切な指導やアドバイスができるようにするため、現在運用している学生カルテシステムを学修ポートフォリオシステムと連携し、分散する学生情報の一元管理を行う。加えて、保健管理センターの機能を充実させるとともに、大学院生を含むメンタルヘルスの問題に対応する精神科医やカウンセラー等を適切に配置し、個別最適化した支援体制を確立する。また、基礎教育のサポートを行う学習相談室とは別に、学習を含む生活全般について学生同士が支え合い、有意義に学生生活を送れるよう、学生相互のピア・サポート活動を推進する。

#### ④-2 課外活動を通したリーダーシップと挑戦力の育成

学生にとって、課外活動に参加し様々な経験を積むことは、コミュニケーション能力、企画力や実践力等を高めるのに効果的である。また、科学技術の普及に関わる課外活動は、本学の建学の精神にも通ずるもので、本学ならではの社会貢献ともなる。そこで、多様な学生が課外活動に参加する機会を増やすため、地域交流、社会貢献に関する活動や理科大ならではの課外活動等への参加の場を創出することで、学生の人間的成長や創造力・挑戦力の醸成を促進する体制を構築する。

#### ④-3 大学院学生への支援の拡充

本学が社会から評価されている「研究の理科大」を発展させ、その存在を「世界の未来を拓く TUS」としてグローバルに展開していくためには、多くの優秀な大学院生が研究を通じて高度かつ専門性の高い教育を、充実した環境の中で受けることが重要となる。本学で学部教育を受けた優秀な学生の大学院への進学者数をさらに増加させるとともに、世界から理科大大学院での教育研究を希望する留学生数の増加も図る。そのために、給付型奨学金の創設・拡充などの経済的支援をさらに充実させ、広報を強化するとともに、博士の早期修了コースの可能性について検討する。また、スキルアップ・キャリア形成・就職への支援も強化していく。

#### ⑤ 社会貢献・連携

本学の建学の精神に表している通り、科学に基づいた教育研究を通じて、社会をより良くしていくことが本学の使命である。世界と地域の両面から社会の課題を考え、その解決に貢献するためには、本学の教育研究力を活かした活動や防災・減災活動を通して、地域や国際社会と強固なネットワークを構築することが重要となる。そのために必要な学生・教職員と卒業生との連携活動も継続して強化していく。地域連携と教育を通じた社会貢献については、以下の2つの項目に重点的に取り組む。

##### ⑤-1 キャンパスと地域との連携強化

本学の教育研究力を活かし、各キャンパスの周辺地域の発展に資する連携活動を推進していく。本学の建学の精神に通じる地域の子どもたちへの科学啓発、本学の研究力に基づいた地域企業への支援を積極的に行うとともに、それに協力する教職員が活動しやすい環境を整える。また、キャンパスと地域・行政が連携した防災、減災活動等へも取り組み、これらの地域との連携活動を通じて、各キャンパスが地域社会の軸となり、その持続的発展に貢献することを目指す。

##### ⑤-2 リカレント教育支援と同窓との連携強化

科学技術の革新の原動力となり、また経営や教育の分野で国際社会に貢献できる人材を育成するため、「再び学ぶ」、「働きながら学ぶ」、「生涯学ぶ」を実現できる場として、オープンカレッジの充実と国際化への対応をさらに進めるとともに、国内外の社会人を対象とした学び直しプログラムを提供する。また、卒業生や学生・教職員が相互及び地域・国際社会に向けて積極的に情報発信・交換する場をキャンパスやオンライン上に構築する。これらを通じて本学の多くの関係者が地域・国際社会に貢献することで本学に対する社会からの信頼を高め、併せて学生や卒業生の誇り及び愛校心を醸成する一助とする。

#### ⑥ 法人運営

本学の建学の精神を受け継ぎ、教育研究理念を実践していくためには、大学の永続的な発展を担う財政基盤を盤石なものとしていくとともに、経営力及び組織の強化を実現する必要がある。また教職員が安心して活動できる環境を構築することは、本学に誇りを持ち、愛校心をさらに深めるために重要となる。そのために以下の4つの項目に重点的に取り組む。

##### ⑥-1 財政基盤の強化

東京23区内の定員抑制により学納金収入の増加が見込み難いこと、また、私立大学等経常費補助

---

金も漸減傾向にあることから、財務体質を改善・強化し、適切な財務運営を行う。加えて、将来事業（キャンパスの再構築、大型研究機器・備品の購入等）や奨学金の原資となる安定的な収入源を確保していく必要がある。そのために特定資産を計画的に積み増して運用益を安全に拡大すること、収益事業としてベンチャー企業等向けのインキュベーションルーム（レンタルラボ）の拡充を進めることなどの多様な取り組みにより財政基盤をさらに強化することで、法人及び大学の永続的な発展を実現する。

#### ⑥-2 経営・組織力の強化

様々な社会変動が起きる状況の中では、それらに適切かつ臨機応変に対応することが求められる。そのため、経営に携わる理事の職務を担える人材を継続的に育成する仕組みを確立する。また、経営を支える事務組織における DX の推進による効率と生産性の向上、事務職員の専門性・企画力・管理能力及び国際対応力強化のための研修制度の拡充、人事制度の見直しと適切な新制度の導入を行う。

#### ⑥-3 教職員のダイバーシティを拡充するための就労環境の改善

多様な人材からなる教職員が安心かつ継続して職務に専念できるように、出産、育児、介護、療養等に際して利用可能な支援制度を含む就労環境の整備と研修制度の拡充を行う。また、男女共同参画を推進する視点から、優秀な人材がジェンダーによる区別なく教職員として活躍できるロールモデルを基にした採用方針や人事制度を構築し、ワークライフバランスの調和と組織活性化を図る。

#### ⑥-4 危機管理体制の強化及びリスク管理意識の向上

大規模災害が発生した際には、学生及び教職員等の命を守ることはもちろんのこと、教育研究の継続性を担保しつつ、地域社会にも貢献できる適切な措置を講じる責務がある。そのために、危機管理体制の強化を図り、学生・教職員用防災マニュアルの更新、大規模災害を想定した備品等の整備に取り組む。また、リスク管理のための研修・訓練を実施し、教職員のリスク管理意識の向上、臨機応変に対応できる能力の修得を図る。

### ⑦ キャンパス整備

本学の学生、教職員が誇りと愛校心を育みながら高度な教育及び研究に専心でき、また、世界中の国々から多様な人材が集って学際的な議論ができる理科大に相応しいキャンパスの整備は、本学のさらなる発展に不可欠である。「世界の未来を拓くTUS」として常に最先端の科学技術を学び、研究し、触れることができるようキャンパスのさらなる充実に向けて、以下の2つの項目に重点的に取り組む。

#### ⑦-1 スマートキャンパスの実現

教育研究の多様化と高度化が求められている現在では、教育研究及び管理業務のDXの推進は必須であり、そのためのIT環境の整備を引き続き推進する。特にキャンパス間の垣根を越えた教育研究及び学生・教職員の交流や課外活動が可能なリアルな場及び仮想環境を整備し、それを国際的な交流にも展開することで「世界の未来を拓くTUS」に発展させていく。さらに、各キャンパスにおける利便性向上のため、キャッシュレス決済の導入などのIT化も推進する。

## ⑦-2 キャンパス再構築及びエコキャンパス化の推進

各キャンパスの機能と役割の再評価を行いキャンパスの再構築を推進する。神楽坂キャンパスは最先端技術を導入し持続的利用が可能な都市型キャンパスを目指し、リビルディングが容易な計画の立案を進める。葛飾キャンパスは新棟の建設及び講義棟のリニューアルを進める。野田キャンパスでは薬学部の移転を念頭に、世界的な研究拠点となる場を再構築する。さらに北海道・長万部キャンパスを加えた全てのキャンパスにおいて、教育研究分野・地域性を最大限活用できる充実した教育研究環境を提供するとともに、学生と教職員が心地よく交流しキャンパスライフを満喫でき、人生の記憶に残る魅力的な場の整備を進める。その際、各キャンパスの状況を的確に把握し、環境負荷を低減するエコキャンパス化を促進するとともに、カーボンニュートラルを目指した施設・設備の改修や創エネルギー・再生可能エネルギーの利用などの検討を開始する。

## ⑧ 学生確保

本学の建学の精神ならびに教育研究理念に共鳴し、本学で学びたいという強い意欲を持った志願者を増やしていくために、広報活動をさらに充実させるとともに、社会の要請に応え得る入試制度を導入する。それらを通して、本学の特長である高度かつ専門的な研究を通じて教育を受けることを強く望む優秀な入学者を増加させ、「世界の未来を拓く TUS」を担う学生を育成していく。その実現に向け、以下の2つの項目について重点的に取り組む。

### ⑧-1 学部入試制度の改革

本学で学びたいと強く考える留学生を含む志願者に対して適切な選抜を実施することは、学習意欲が高く多様・多彩な能力を有する優秀な学生を教育していく上で極めて重要である。そのために従来の入試制度の検証及び入学者の分析等を通じて一般入試・推薦入試の区分及び選抜内容の見直しを行い、本学の幅広い教育研究分野に対して適切に志願できる入試制度として改革していく。さらに、専門分野への意識が高く高度な専門教育を望む志願者に向けて新たな選抜制度の実施を検討する。

### ⑧-2 高大連携の推進

建学の精神と教育研究理念を正しくかつ深く理解した入学意欲の高い志願者を増加させるため、積極的に高大連携を推進する。そのため、理数教育を重視している高校の教育の高度化や高校生への将来イメージの醸成を促すための取り組みに対して積極的に支援するとともに、それに協力する教職員が活動しやすい環境を整える。その過程で本学の建学の精神と教育研究理念に強く共感及び共鳴する高校に対しては、学校推薦制度の拡充など重点的な連携を推進していく。

## 8. 本学で継続的に取り組む重要課題

最後に、「中期計画 2026」の 카테고리別の課題としては組み入れないが、中期計画の5年間の中で継続的に取り組むべき重要な課題を表3にまとめる。本学が「世界の未来を拓く TUS」として広く社会から認知され、かつ本学関係者が「愛校心」と「誇り」をさらに抱けるよう、継続的に取り組む重要課題に「ブランディング強化」を加えた。その一環として、本中期計画中に2031年の本学創立150周年に向けた記念事業を開始する。これらの課題については各年度の年次計画の中で目標、活動指標等を設定し、その解決に向けて着実に取り組んでいく。

表3 本学で継続的に取り組む重要課題

カテゴリー	課題
教育	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教養教育・英語教育の充実</li> <li>2. キャリア形成のための教育の充実</li> <li>3. リカレント教育の充実</li> <li>4. 学修ポートフォリオシステムへの学年 GPA 分布の記載などの活用推進</li> <li>5. 新しい教育方法の導入検討と研修機会及び授業評価の充実</li> <li>6. 全学的なカリキュラムの点検・検証・見直し</li> </ol>
研究	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理科大ならではの独創的・分野横断的研究の戦略的推進</li> <li>2. 研究支援制度の充実</li> <li>3. 研究の見える化と研究成果の世界への発信の強化</li> <li>4. 研究機器センターの戦略的運営</li> </ol>
国際化	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学院生の国際会議発表促進</li> <li>2. 若手研究者国際会議派遣の推進</li> <li>3. 外国人教員の増員ならびに研究室の国際化の推進</li> </ol>
学生支援	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. キャリア支援策の充実</li> <li>2. 各種奨学金の充実</li> <li>3. 外国人留学生に対する生活・キャリア支援の充実</li> <li>4. 障がい者支援の充実</li> </ol>
ブランディング強化	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ブランド力強化のための教育研究組織及び支援体制の整備・改革</li> <li>2. ブランド発信力の強化</li> <li>3. 150周年記念事業の開始</li> </ol>
社会貢献・社会連携	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新たなベンチャーエコシステムの設置による起業家育成強化</li> <li>2. 産学公連携やベンチャー支援体制の強化</li> <li>3. 卒業生と学生・教職員との連携活動の強化</li> </ol>
法人運営	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外部研究資金獲得の強化</li> <li>2. 募金活動推進による寄付金増加</li> </ol>
キャンパス整備	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 省エネ対策の強化・徹底</li> <li>2. 施設・設備の整備・改修</li> </ol>
学生確保	オープンキャンパスの充実や入試広報の拡充

## 9. おわりに

上記の計画のそれぞれの課題については、PDCA サイクルに基づき目標と活動指標を設け、各課題の責任者のもとで半期に1度程度、課題達成に向けた取り組みの進捗状況の確認及び実施内容の検証を行う。また、年度ごとの取り組み及び成果については学内外に公表していくこととする。なお、本学は、高等教育機関として、社会に対する説明責任を果たすとともに、その教育の質を向上させる観点から、本計画も含め、今後も積極的に教育研究活動等の情報を公開していく。

「中期計画 2026」について、法人理事及び学長室、各機構、学部・研究科・教養教育研究院、事務総局等に属する全ての教職員が共有し、一体となってその計画の目標達成に向けて不断の努力を着実に重ねることで、「世界の未来を拓く TUS」の実現に繋げていく。

## 学修状況アンケート 設問内容

### 1. アンケート①（対象者：全学生）

#### 【アンケートに関する説明】

このアンケートは、学生1人1人の学修や心身の不安等を早期に収集・把握し、必要に応じた支援を行うことを目的としたものです。（年に3回程度、全在生を対象に実施いたします）

このアンケートでは、学生個人の問題を把握し、必要に応じた支援を行うことを主な目的としていることから、回答状況に応じて追加の調査等を行う場合があります。

Q1. 最近2週間の体調はどうですか？

1. 良好 2. 普通 3. やや不良 4. 不良

Q2. 最近2週間のメンタル面の調子を天気で表すとどれですか？

1. 晴れ 2. 晴れ時々曇り 3. 曇り 4. 曇り時々雨 5. 雨

Q3. 現在、以下のいずれかで不安や、困っていることがありますか。（複数選択可）

1. 学修面 2. 体調面 3. メンタル面 4. 進路 5. 人間関係 6. その他  
7. 特にない

#### 【Q3で「7.」以外を選択した場合のみ表示】

Q4. その問題への対処方法

1. 自分で解決できそう 2. 友人や家族に相談している  
3. 相談できる人がいたら相談したい

#### 【アンケート①回答後の分岐】

事例1：特段の不安や悩みがない場合（Q1～Q3で黒字の選択肢を選択）

⇒フィードバック①を行い、終了

事例2-1：不安等はあるが、相談は不要と判断した場合

（Q1～Q3で赤字選択肢を選択、かつQ4で「3.」以外を選択）

⇒フィードバック②により、相談窓口等を提示。アンケート終了

（自発的な相談を促す）

事例2-2：不安等があり、相談が必要と判断した場合（Q4で「3.」を選択）

⇒フィードバック②により、相談窓口等を提示。（自発的な相談を促す）

3週目以降、アンケート②へ

## 2. アンケート②（対象者：一部学生）

### 【アンケートに関する説明】

このアンケートは、先日実施した「学修状況アンケート①」において、「不安等があり、相談できる人がいたら相談したい」を選択した学生を対象に、追加で現状を伺うアンケートです。

このアンケートでは、回答内容に応じ、個別の支援を行います。

支援を行うにあたり、以下のうち必要な関係者と内容を共有いたしますが、共有の範囲は必要最小限とするとともに、記載内容やプライバシーに関する秘密は、固く守られますので、安心して回答してください。

- ・教育 DX 推進センター事務局（本アンケート実施者）
- ・関係教員（所属学科の幹事、担任の教員等）
- ・関係職員（よろず相談室カウンセラー、保健管理センター職員等）

Q1. 前回アンケートで回答のあった不安や困っていることについて、誰かに相談に行きましたか。

1. はい 2. いいえ

Q2. 不安や困っていることは解消しましたか。

1. 全て解消した 2. 一部解消したが解消していないものもある  
3. 解消していない

### 【Q2で「2.」又は「3.」を選択した場合のみ表示】

Q3. 現在の不安や困っていることはどれに該当しますか。（複数選択可）

1. 学修面 2. 体調面 3. メンタル面 4. 進路 5. 人間関係 6. その他

Q4. ○○（Q3で選択した不安等）について具体的な相談内容をお書きください。

（記載可能な範囲で問題ありません）

### 【アンケート②回答後の分岐】

事例2-2-1：アンケート②回答時には全て解消したと判断した場合

（Q2で「1.」を選択）

⇒フィードバック②の後、終了

事例2-2-2：学科等からの個別対応が必要な場合（Q2で「2.」又は「3.」を選択）

⇒フィードバック③の後、学科等から個別対応

以上

## 2022 年度新入生対象アンケート（WEB 設問）

このアンケートは、本学に入学した学生の、学修傾向及び学修行動の把握を目的として、実施するものです。

アンケート結果は本学における教育改善のための分析に活用します。回答はすべて統計的に処理され、個人が特定されることや、それによって不利益が生じることはありませんので、率直にお答えください。

1. あなたにとって、大学で学ぶ目的（大学進学理由）は何ですか。最もあてはまるものを1つ選択してください。
  - 興味や関心のあることを深く追及する
  - 様々なことを幅広く学ぶ（教養を身につける）
  - 将来の就職に必要な資格や免許を取る
  - 将来の就職に役立つ専門知識や技術を身につける
  - 社会に出たときに役立つ知識や技術を身につける
  - 様々な人と交流したり、いろいろな経験をしたりする
  - 大学卒業の学歴を得る
  - 社会に出るまでの自由な時間を楽しむ
  - 進路選択についてじっくり考える
  - まだ見つかっていない
  - その他
  
2. 本学の志望順位について、あてはまるものを1つ選択してください。
  - 第一志望
  - 第二志望
  - 第三志望以下
  
3. 所属する学部・学科の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか。あてはまるものを1つ選択してください。
  - 一致している
  - 完全に一致はしていないが、興味関心に近い
  - 一致していない
  - まだ自分の興味関心がわからない
  - 所属する学部・学科の学問内容がよくわからない
  - その他

4. 大学時代にどの程度の英語力を身につけたいと考えていますか。最もあてはまるものを1つ選択してください。

- 英語圏の大学等への留学や、英語を使って仕事をする際に支障がないレベル  
(多岐にわたる話題を理解し、複雑な内容を明瞭かつ詳細にプレゼンテーション等で表現することができる)
- 英語圏に長期滞在するのに支障がないレベル  
(身近な社会問題等のニュースを理解し、自分の考えや意見を簡単に説明できる)
- 身の回りの話題に関してやり取りができ、短期の語学留学等で楽しめるレベル  
(日常生活の身近なことがらについて、支障なくやり取りができる)
- 日常の簡単な質問に答えられるレベル  
(日常生活のごく簡単な表現を聞き取ることができ、基本的な語句で自分の考え等を伝えられる)
- 英語を積極的に身につけようとは考えていない

5. 次の項目について、あなたの気持ちにあてはまる選択肢を1つ選択してください。

**【項目】**

- ・友人ができるか不安
- ・授業についていけるか不安
- ・経済的な不安がある
- ・他の学部・学科に編入したい
- ・他大学の再受験や、退学を検討している

**【選択肢】**

- 非常にあてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- まったくあてはまらない

6. 高校時代(高校3年生の11月頃)、週当たり平均でどの程度自習をしていましたか。

(塾や予備校の授業時間を除く)

自習時間の平均を「分を単位」(半角数字)として記載してください。

(例: 1時間 = 「60」、2時間10分 = 「130」、自習時間ゼロ = 「0」)

以上

# 2022年度学習実態調査 アンケート結果概要

【表示範囲：全教職員】

※実施期間：2022年4月1日～4月30日

※実施対象：2022年度学部1年生

【データの内訳（学部別・学科別・キャンパス別）を閲覧したい場合】

・画面上部の「理め込みデータ」のタブをクリックし、閲覧したいデータを選択することで、データの内訳を閲覧できます。

(例) 理学部第一部の回答に限定して閲覧したい。

→ 「理め込みデータ-学部：すべて」を「理め込みデータ-学部：理学部第一部」に変更

回答数 2,415

2,415

学部別回答数 2,364

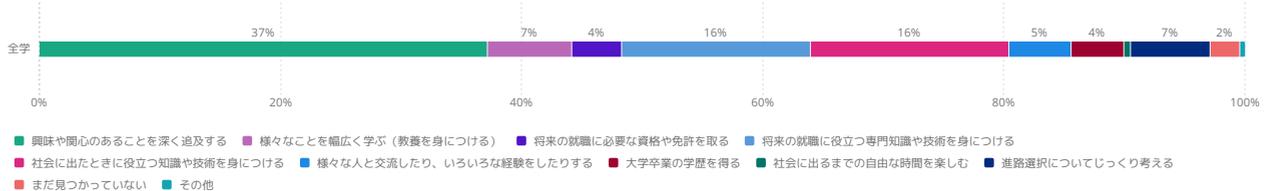
【テキストセット】 理め込みデータ - 学部

回答数

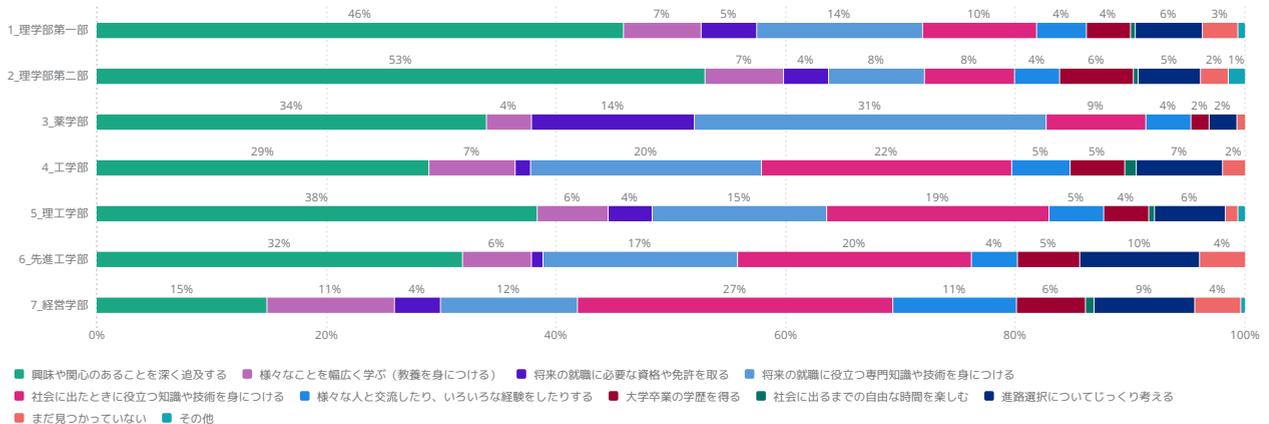
1_理学部第一部	640
2_理学部第二部	205
3_薬学部	130
4_工学部	296
5_理工学部	637
6_先進工学部	203
7_経営学部	253

## 集計データ

設問1 あなたにとって、大学で学ぶ目的（大学進学理由）は何ですか。最もあてはまるものを1つ選択してください。（全学） 2,345



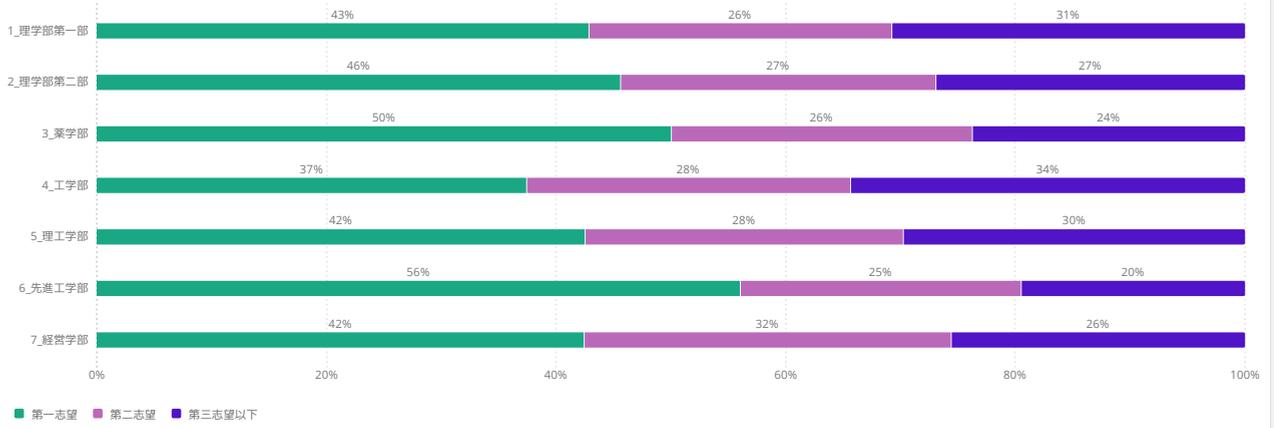
設問1 あなたにとって、大学で学ぶ目的（大学進学理由）は何ですか。最もあてはまるものを1つ選択してください。（学部別比較） 2,345



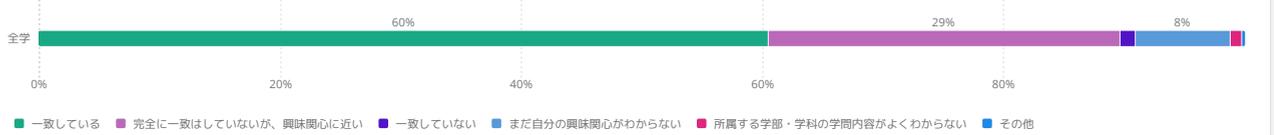
設問2 本学の志望順位について、あてはまるものを1つ選択してください。（全学） 2,342



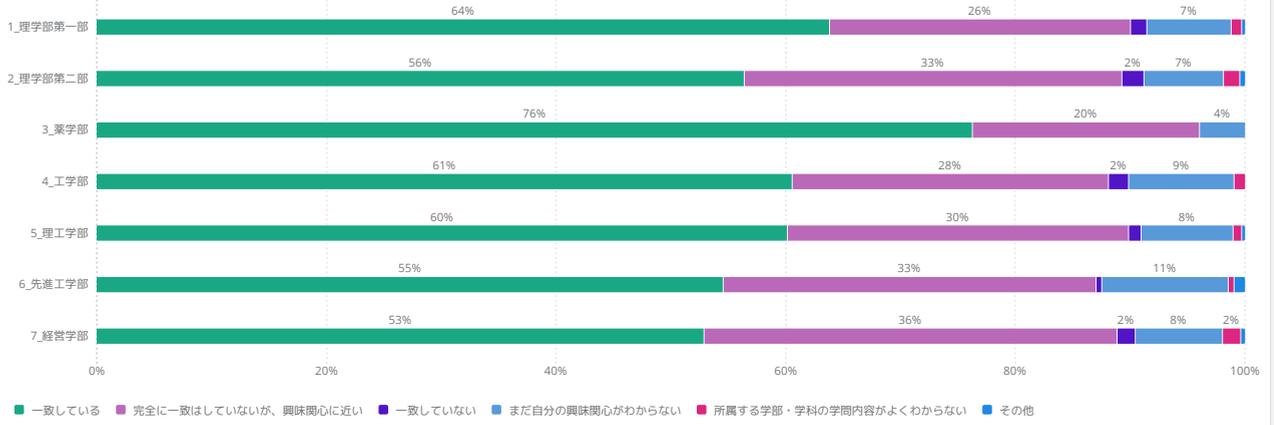
設問 2. 本学の志望順位について、あてはまるものを1つ選択してください。(学部別比較) 2,342



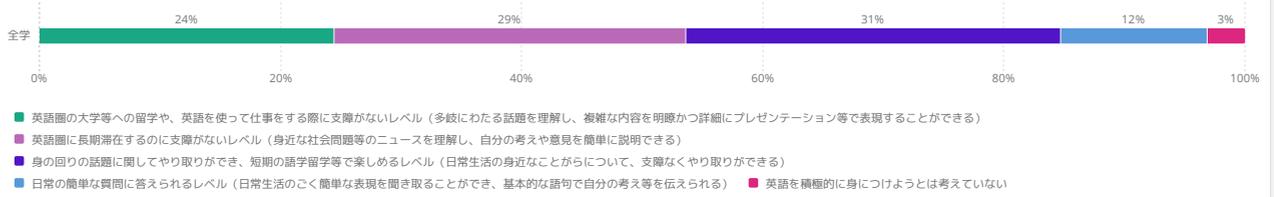
設問 3. 所属する学部・学科の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか。あてはまるものを1つ選択してください。(全学) 2,340



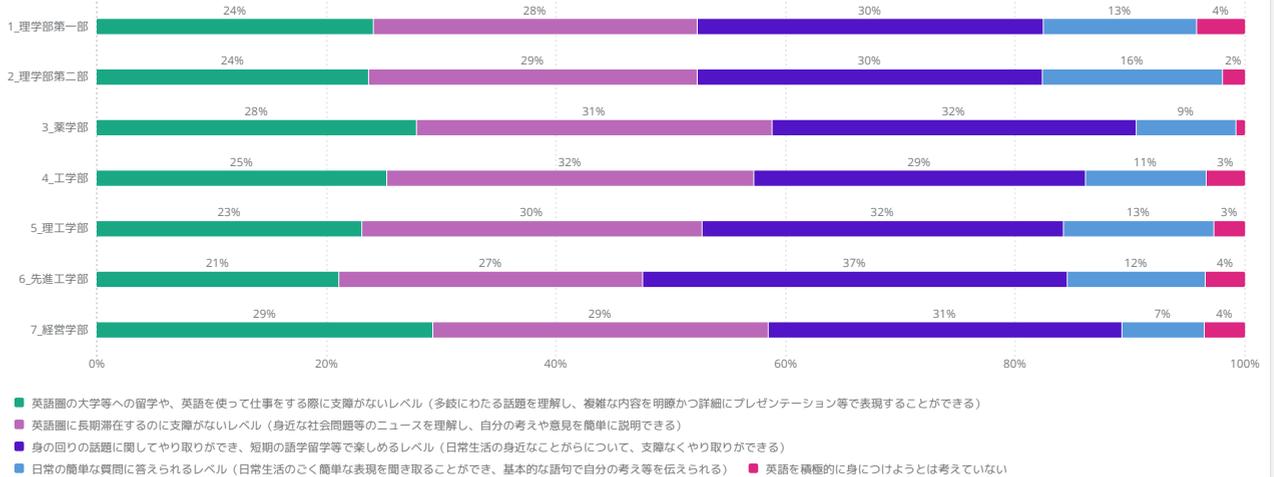
設問 3. 所属する学部・学科の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか。あてはまるものを1つ選択してください。(学部別比較) 2,340



設問 4. 大学時代にどの程度の英語力を身につけたいと考えていますか。最もあてはまるものを1つ選択してください。(全学) 2,335

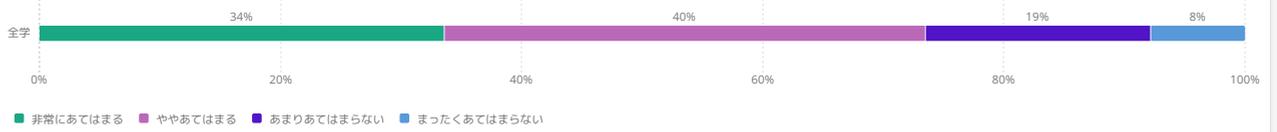


設問 4. 大学時代にどの程度の英語力を身につけたいと考えていますか。最もあてはまるものを1つ選択してください。(学部別比較) 2,335

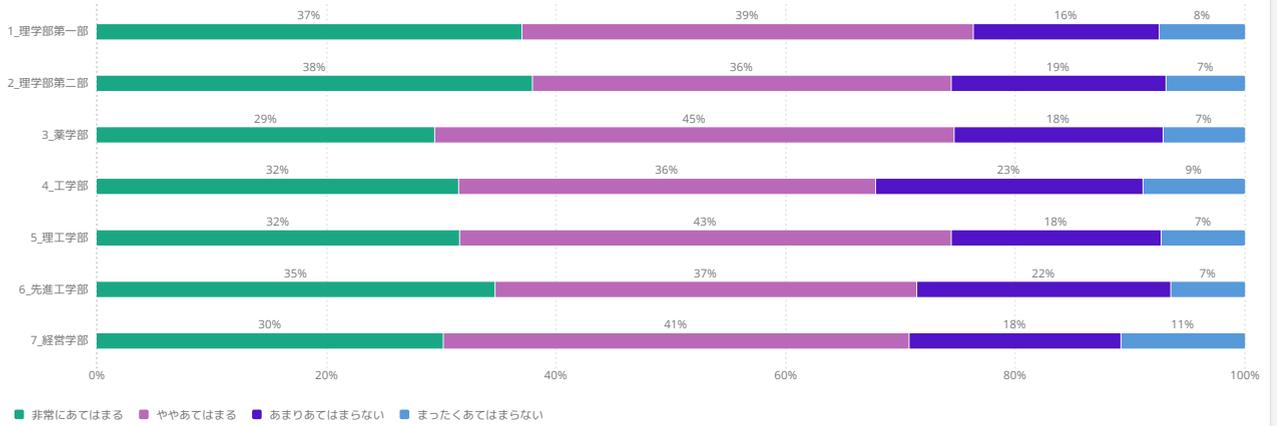


設問 5. 次の項目について、あなたの気持ちに当てはまる選択肢を1つ選択してください。

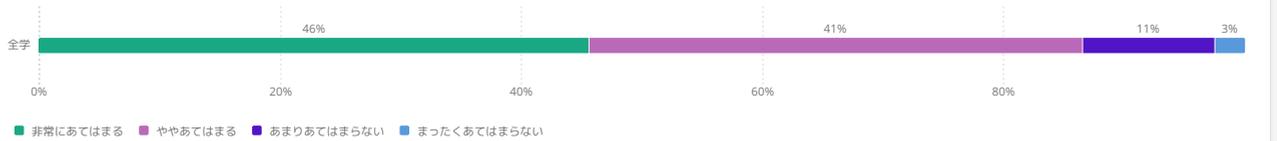
設問5 - 1. 友人ができるか不安 (全学) 2,329



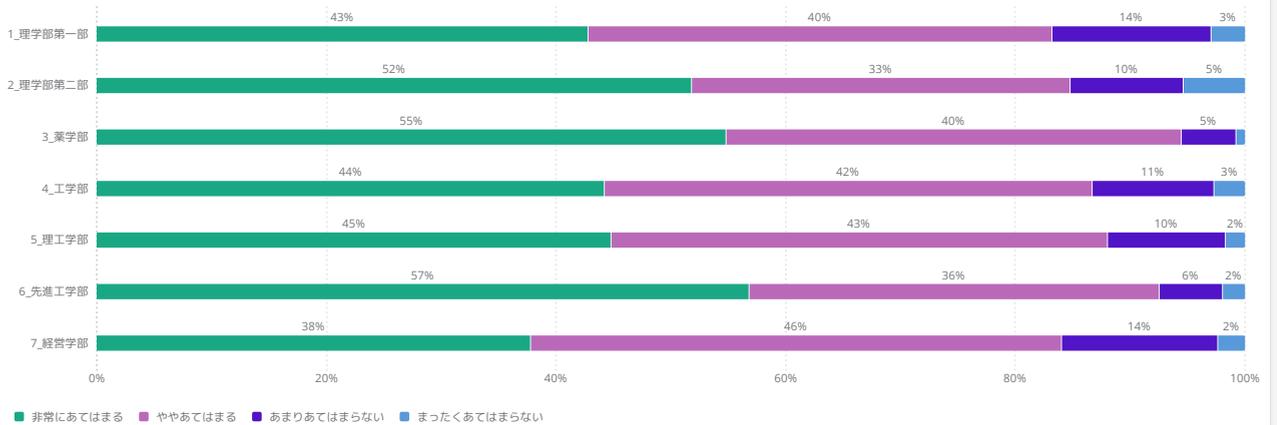
設問5 - 1. 友人ができるか不安 (学部別比較) 2,329



設問5 - 2. 授業についていけないか不安 (全学) 2,329



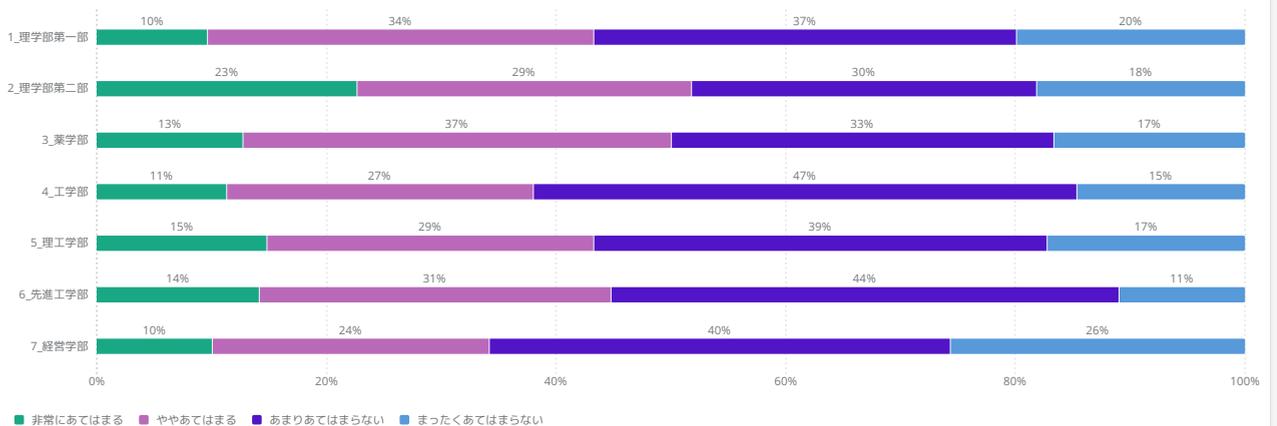
設問5 - 2. 授業についていけないか不安 (学部別比較) 2,329



設問5 - 3. 経済的な不安がある (全学) 2,329



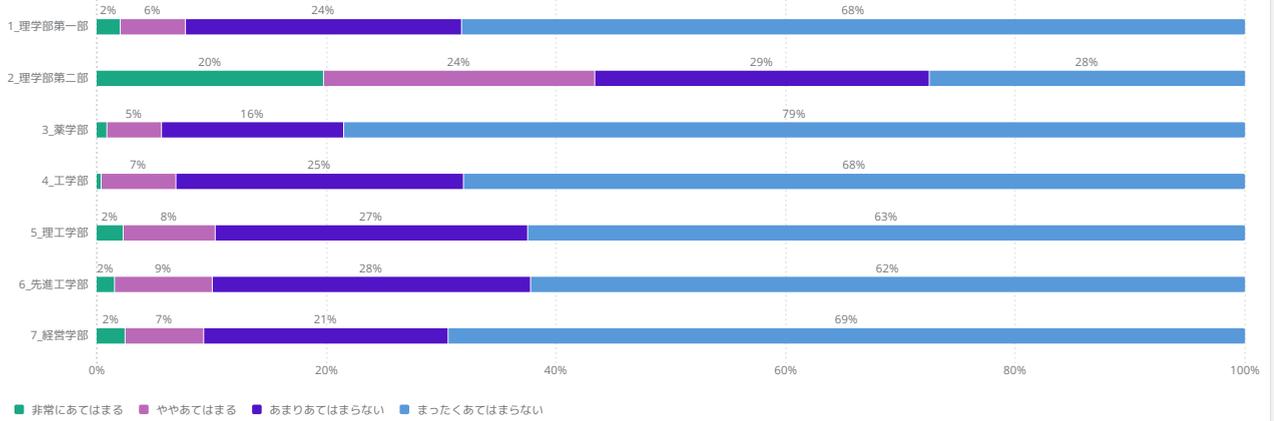
設問5 - 3. 経済的な不安がある (学部別比較) 2,329



設問5 - 4. 他の学部・学科に編入したい (全学) 2,329



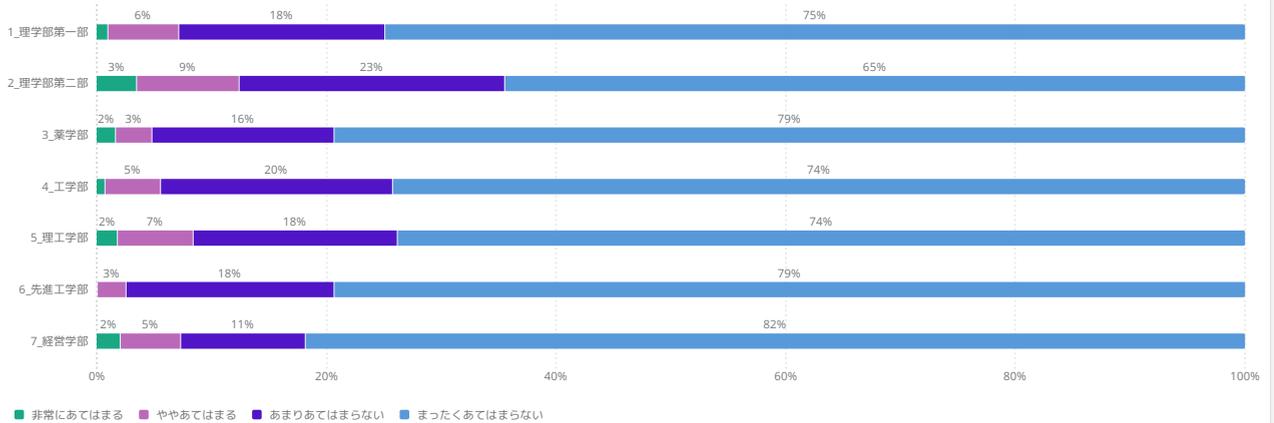
設問5 - 4. 他の学部・学科に編入したい (学部別比較) 2,329



設問5 - 5. 他大学の再受験や、退学を検討している (全学) 2,329



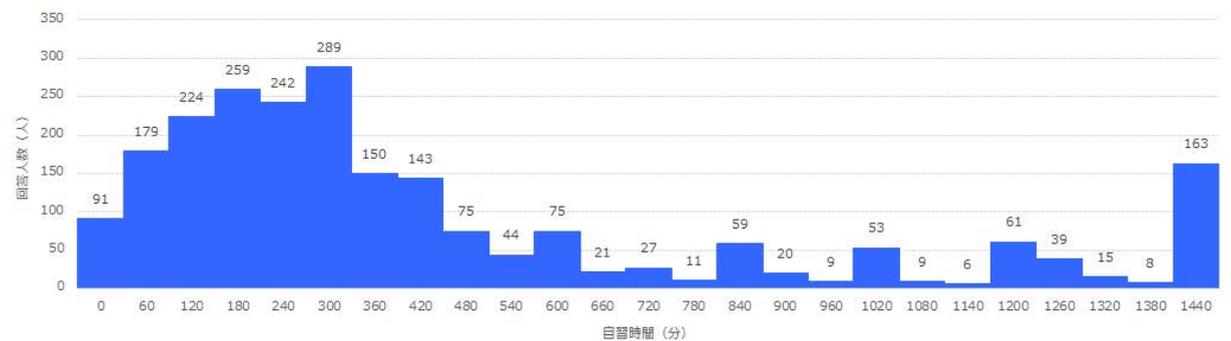
設問5 - 5. 他大学の再受験や、退学を検討している (学部別比較) 2,329



設問6. 高校時代 (高校3年生の11月頃)、週当たり平均でどの程度自習をしていましたか (塾や予備校の授業時間を除く)。自習時間の平均を「分を単位」として教えてください。 (全学) 2,273



設問6. 高校時代 (高校3年生の11月頃)、週当たり平均でどの程度自習をしていましたか (塾や予備校の授業時間を除く)。自習時間の平均を「分を単位」として教えてください。 (全学) 2,273



授業改善のためのアンケート 共通設問

1. この授業は、シラバスに記載された目的に沿って行われていましたか。(一つ選択)
2. この授業はよく準備・計画されていきましたか。(一つ選択)
3. この授業の難易度は適切でしたか。(一つ選択)  
4：難しかった、3：やや難しかった、2：やや易しかった、1：易しかった
4. 教員の説明はわかりやすかったですか。(一つ選択)
5. あなたはこの授業のシラバスに記載された到達目標に到達したと思いますか。(一つ選択)
6. あなたはこの授業1コマ(90分)につき、予習・復習(レポート・発表資料作成、図書館やインターネットでの情報収集、ノートや配付資料の復習等を含む)を平均でどの程度行いましたか。  
予習・復習時間の平均を「分を単位」(半角数字)として記入してください。  
(例：1時間＝「60」、2時間10分＝「130」、予習・復習時間ゼロ＝「0」)
7. この授業の良かった点があれば、記入してください。(400字以内)
8. この授業の改善してほしい点があれば、記入してください。(400字以内)

選択肢(共通設問3,6を除く)

- 4：大いにそう思う
- 3：そう思う
- 2：そう思わない
- 1：全くそう思わない

## 2022年度前期 授業改善のためのアンケート 集計結果

### 1. 各学部・研究科における実施科目 (WEB方式)

・・・各学部・研究科においてあらかじめ決定したアンケート実施予定科目に対する実施の割合

(注)

- \* 履修者数は、2022年8月26日現在。
- \* 科目数には、後期開講科目及び履修者ゼロの科目は含まない。
- \* 本集計結果には、前期中間時期の集計分も含む。

#### 【参考】

アンケート回答期間	2022年7月8日(金)～2022年8月7日(日)
コメント入力期間	2022年8月8日(月)～2022年8月17日(水)
結果公開期間	2022年8月18日(木)～2024年3月31日(日)

#### (1) 全体

	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
合計	2,709	2,471	91.21%	149,675	35,844	23.95%

#### (2) 学部別

学部	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
理一	486	483	99.38%	27,054	10,982	40.59%
理二	350	300	85.71%	14,662	2,494	17.01%
薬	124	117	94.35%	8,306	2,633	31.70%
工	366	342	93.44%	23,854	4,037	16.92%
工二	0	0	-	0	0	-
理工	733	683	93.18%	46,571	10,243	21.99%
先進工	176	154	87.50%	10,163	1,642	16.16%
経営	221	207	93.67%	11,820	2,955	25.00%
合計	2,456	2,286	93.08%	142,430	34,986	24.56%

## 2022年度前期 授業改善のためのアンケート 集計結果

## (3) 学部学科別

学部学科	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
理一 教養	235	233	99.15%	10,088	4,146	41.10%
理一 数学	42	42	100.00%	2,263	1,195	52.81%
理一 物理	35	34	97.14%	2,507	934	37.26%
理一 化学	38	38	100.00%	2,894	1,585	54.77%
理一 応数	49	49	100.00%	2,846	1,013	35.59%
理一 応物	46	46	100.00%	3,380	1,036	30.65%
理一 応化	41	41	100.00%	3,076	1,073	34.88%
理二 教養	181	144	79.56%	5,283	900	17.04%
理二 数学	79	71	89.87%	3,218	526	16.35%
理二 物理	51	46	90.20%	3,193	592	18.54%
理二 化学	39	39	100.00%	2,968	476	16.04%
薬	33	33	100.00%	4,533	1,374	30.31%
薬 教養	62	56	90.32%	1,661	626	37.69%
薬 薬	19	18	94.74%	1,342	364	27.12%
薬 創薬	10	10	100.00%	770	269	34.94%
工 教養	110	101	91.82%	6,945	1,370	19.73%
工 建築	68	64	94.12%	3,749	700	18.67%
工 工化	48	42	87.50%	3,766	310	8.23%
工 電工	49	48	97.96%	3,000	378	12.60%
工 経工	0	0	-	0	0	-
工 機工	48	44	91.67%	3,143	312	9.93%
工 情工	43	43	100.00%	3,251	967	29.74%
工二 教養	0	0	-	0	0	-
工二 建築	0	0	-	0	0	-
工二 電工	0	0	-	0	0	-
工二 経工	0	0	-	0	0	-
理工 教養	337	322	95.55%	14,350	3,660	25.51%
理工 数学	46	40	86.96%	2,184	339	15.52%
理工 物理	38	36	94.74%	3,492	1,113	31.87%
理工 情報	34	32	94.12%	2,589	386	14.91%
理工 応生	36	31	86.11%	2,691	469	17.43%
理工 建築	42	37	88.10%	3,416	515	15.08%
理工 先化	32	30	93.75%	2,584	634	24.54%
理工 電情	48	46	95.83%	4,518	592	13.10%
理工 経工	34	29	85.29%	2,697	443	16.43%
理工 機工	44	38	86.36%	3,855	989	25.65%
理工 土工	42	42	100.00%	4,195	1,103	26.29%
先進工 教養	42	33	78.57%	929	145	15.61%
先進工 電シ工	47	41	87.23%	3,258	513	15.75%
先進工 マテ工	44	42	95.45%	2,807	396	14.11%
先進工 生シ工	43	38	88.37%	3,169	588	18.55%
経営 教養	99	95	95.96%	3,479	1,197	34.41%
経営 経営	56	50	89.29%	3,699	838	22.65%
経営 ビジ	40	38	95.00%	3,154	674	21.37%
経営 国デ	26	24	92.31%	1,488	246	16.53%
合計	2,456	2,286	93.08%	142,430	34,986	24.56%

## (4) 学部開講科目・授業形態別

授業形態	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
講義	2,159	2,016	93.38%	124,536	30,847	24.77%
演習	168	149	88.69%	9,581	2,709	28.27%
実験	94	90	95.74%	6,232	1,183	18.98%
実習	26	24	92.31%	1,946	235	12.08%
実技	0	0	-	0	0	-
卒研	9	7	77.78%	135	12	8.89%
合計	2,456	2,286	93.08%	142,430	34,986	24.56%

## 2022年度前期 授業改善のためのアンケート 集計結果

## (5) 研究科別

研究科	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
理研	48	43	89.58%	1,709	226	13.22%
総化研	0	0	-	0	0	-
科教研	0	0	-	0	0	-
薬研	16	5	31.25%	172	17	9.88%
工研	47	35	74.47%	1,364	171	12.54%
理工研	100	74	74.00%	3,432	359	10.46%
先進工研	13	12	92.31%	344	27	7.85%
経営研	20	11	55.00%	185	32	17.30%
生命研	9	5	55.56%	39	26	66.67%
火研	0	0	-	0	0	-
合計	253	185	73.12%	7,245	858	11.84%

## (6) 研究科専攻別

研究科専攻	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
理研 教養	1	1	100.00%	88	15	17.05%
理研 数学	3	3	100.00%	39	9	23.08%
理研 物理	11	10	90.91%	353	71	20.11%
理研 化学	11	10	90.91%	513	33	6.43%
理研 応数	8	8	100.00%	203	35	17.24%
理研 応物	6	6	100.00%	255	38	14.90%
理研 科教	8	5	62.50%	258	25	9.69%
総化研 総化	0	0	-	0	0	-
科教研 科教	0	0	-	0	0	-
薬研	0	0	-	0	0	-
薬研 教養	16	5	31.25%	172	17	9.88%
工研 教養	17	8	47.06%	528	41	7.77%
工研 建築	6	5	83.33%	88	6	6.82%
工研 工化	2	2	100.00%	126	45	35.71%
工研 電工	10	10	100.00%	252	55	21.83%
工研 経工	0	0	-	0	0	-
工研 情工	7	6	85.71%	160	11	6.88%
工研 機工	5	4	80.00%	210	13	6.19%
理工研 教養	27	16	59.26%	1,218	107	8.78%
理工研 数学	3	0	0.00%	55	0	0.00%
理工研 物理	4	3	75.00%	101	7	6.93%
理工研 情報	6	6	100.00%	278	18	6.47%
理工研 応生	1	1	100.00%	41	1	2.44%
理工研 建築	7	2	28.57%	167	4	2.40%
理工研 先化	8	7	87.50%	292	46	15.75%
理工研 電工	9	8	88.89%	442	95	21.49%
理工研 経工	7	7	100.00%	158	21	13.29%
理工研 機工	9	7	77.78%	369	10	2.71%
理工研 土工	15	13	86.67%	272	33	12.13%
理工研 火科	4	4	100.00%	39	17	43.59%
先進工研 教養	2	2	100.00%	108	6	5.56%
先進工研 電シ工	6	6	100.00%	141	16	11.35%
先進工研 マテ工	5	4	80.00%	95	5	5.26%
先進工研 生シ工	0	0	-	0	0	-
経営研 教養	0	0	-	0	0	-
経営研 経営	20	11	55.00%	185	32	17.30%
経営研 技経	0	0	-	0	0	-
生命研 教養	0	0	-	0	0	-
生命研 生命	9	5	55.56%	39	26	66.67%
火研 火科	0	0	-	0	0	-
合計	253	185	73.12%	7,245	858	11.84%

## 2022年度前期 授業改善のためのアンケート 集計結果

## (7) 研究科開講科目・授業形態別

授業形態	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
講義	246	181	73.58%	7,161	851	11.88%
演習	3	3	100.00%	75	6	8.00%
実験	0	0	-	0	0	-
実習	0	0	-	0	0	-
実技	0	0	-	0	0	-
卒研	4	1	25.00%	9	1	11.11%
合計	253	185	73.12%	7,245	858	11.84%

## 2. 全授業科目における実施科目 (WEB方式)

… 全授業科目に対する実施の割合

(注)

- \* 履修者数は、2022年8月26日現在。
- \* 科目数には、後期開講科目及び履修者ゼロの科目は含まない。
- \* 本集計結果には、前期中間時期の集計分も含む。

## 【参考】

アンケート回答期間	2022年7月8日(金)～2022年8月7日(日)
コメント入力期間	2022年8月8日(月)～2022年8月17日(水)
結果公開期間	2022年8月18日(木)～2024年3月31日(日)

## (1) 全体

	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
合計	5,096	2,471	48.49%

## (2) 学部別

学部	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
理一	679	483	71.13%
理二	427	300	70.26%
薬	284	117	41.20%
工	440	342	77.73%
工二	2	0	0.00%
理工	979	683	69.77%
先進工	262	154	58.78%
経営	349	207	59.31%
合計	3,422	2,286	66.80%

## 2022年度前期 授業改善のためのアンケート 集計結果

## (3) 学部学科別

学部学科	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
理一 教養	308	233	75.65%
理一 数学	60	42	70.00%
理一 物理	57	34	59.65%
理一 化学	65	38	58.46%
理一 応数	63	49	77.78%
理一 応物	59	46	77.97%
理一 応化	67	41	61.19%
理二 教養	196	144	73.47%
理二 数学	86	71	82.56%
理二 物理	69	46	66.67%
理二 化学	76	39	51.32%
薬	48	33	68.75%
薬 教養	70	56	80.00%
薬 薬	122	18	14.75%
薬 創薬	44	10	22.73%
工 教養	159	101	63.52%
工 建築	80	64	80.00%
工 工化	53	42	79.25%
工 電工	52	48	92.31%
工 経工	0	0	-
工 機工	49	44	89.80%
工 情工	47	43	91.49%
工二 教養	0	0	-
工二 建築	0	0	-
工二 電工	0	0	-
工二 経工	2	0	0.00%
理工 教養	401	322	80.30%
理工 数学	68	40	58.82%
理工 物理	55	36	65.45%
理工 情報	47	32	68.09%
理工 応生	52	31	59.62%
理工 建築	59	37	62.71%
理工 先化	51	30	58.82%
理工 電情	72	46	63.89%
理工 経工	59	29	49.15%
理工 機工	61	38	62.30%
理工 土工	54	42	77.78%
先進工 教養	46	33	71.74%
先進工 電シ工	73	41	56.16%
先進工 マテ工	72	42	58.33%
先進工 生シ工	71	38	53.52%
経営 教養	107	95	88.79%
経営 経営	115	50	43.48%
経営 ビジ	80	38	47.50%
経営 国デ	47	24	51.06%
合計	3,422	2,286	66.80%

## (4) 学部開講科目・授業形態別

授業形態	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
講義	2,395	2,016	84.18%
演習	238	149	62.61%
実験	128	90	70.31%
実習	56	24	42.86%
実技	90	0	0.00%
卒研	515	7	1.36%
合計	3,422	2,286	66.80%

## 2022年度前期 授業改善のためのアンケート 集計結果

## (5) 研究科別

研究科	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
理研	488	43	8.81%
総化研	0	0	-
科教研	0	0	-
薬研	173	5	2.89%
工研	108	35	32.41%
理工研	524	74	14.12%
先進工研	211	12	5.69%
経営研	128	11	8.59%
生命研	42	5	11.90%
火研	0	0	-
合計	1,674	185	11.05%

## (6) 研究科専攻別

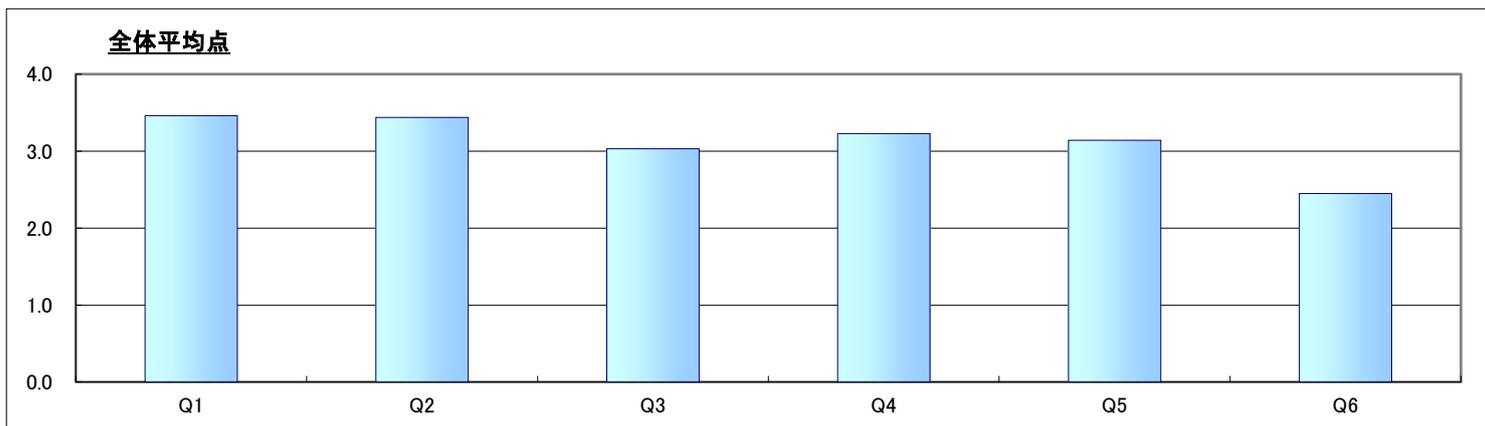
研究科専攻	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
理研 教養	2	1	50.00%
理研 数学	63	3	4.76%
理研 物理	98	10	10.20%
理研 化学	131	10	7.63%
理研 応数	63	8	12.70%
理研 応物	59	6	10.17%
理研 科教	72	5	6.94%
総化研 総化	0	0	-
科教研 科教	0	0	-
薬研	145	0	0.00%
薬研 教養	28	5	17.86%
工研 教養	23	8	34.78%
工研 建築	24	5	20.83%
工研 工化	7	2	28.57%
工研 電工	17	10	58.82%
工研 経工	1	0	0.00%
工研 情工	22	6	27.27%
工研 機工	14	4	28.57%
理工研 教養	51	16	31.37%
理工研 数学	46	0	0.00%
理工研 物理	40	3	7.50%
理工研 情報	31	6	19.35%
理工研 応生	61	1	1.64%
理工研 建築	59	2	3.39%
理工研 先化	30	7	23.33%
理工研 電工	81	8	9.88%
理工研 経工	31	7	22.58%
理工研 機工	40	7	17.50%
理工研 土工	40	13	32.50%
理工研 火科	14	4	28.57%
先進工研 教養	5	2	40.00%
先進工研 電シ工	75	6	8.00%
先進工研 マテ工	57	4	7.02%
先進工研 生シ工	74	0	0.00%
経営研 教養	0	0	-
経営研 経営	48	11	22.92%
経営研 技経	80	0	0.00%
生命研 教養	2	0	0.00%
生命研 生命	40	5	12.50%
火研 火科	0	0	-
合計	1,674	185	11.05%

## (7) 研究科開講科目・授業形態別

授業形態	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
講義	659	181	27.47%
演習	114	3	2.63%
実験	1	0	0.00%
実習	10	0	0.00%
実技	2	0	0.00%
卒研	888	1	0.11%
合計	1,674	185	11.05%

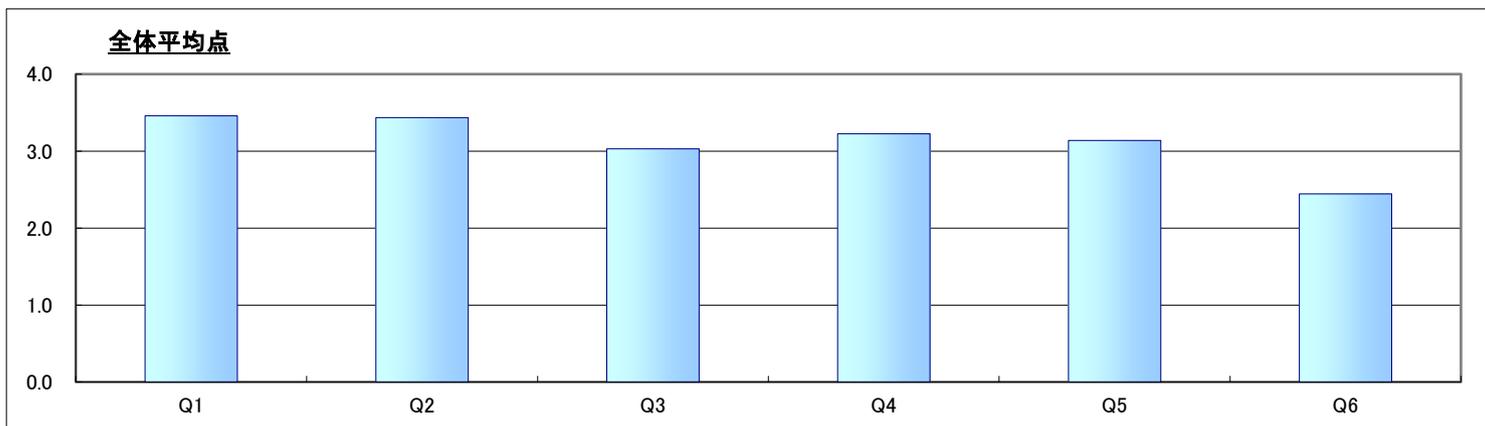
履修者数	149,675
回答者数	35,844

■ 共通設問								
Q	設問文	上段:度数(人)／下段:構成比(%)				有効回答	無効回答	全体平均点
		4	3	2	1			
		大いに そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない			
1	この授業は、シラバスに記載された目的に沿って行われていましたか。	17,797	17,054	696	297	35,844	0	3.46
		49.7	47.6	1.9	0.8			
2	この授業はよく準備・計画されていましたか。	17,846	16,215	1,400	382	35,843	1	3.44
		49.8	45.2	3.9	1.1			
3	この授業の難易度は適切でしたか。	9,132	19,550	6,270	890	35,842	2	3.03
		25.5	54.5	17.5	2.5			
4	教員の説明はわかりやすかったですか。	13,256	18,446	3,171	966	35,839	5	3.23
		37.0	51.5	8.8	2.7			
5	あなたはこの授業のシラバスに記載された到達目標に到達したと思いますか。	9,808	21,946	3,403	682	35,839	5	3.14
		27.4	61.2	9.5	1.9			
6	あなたはこの授業1コマ(90分)につき、予習・復習(レポート・発表資料作成、図書館やインターネットでの情報収集、ノートや配布資料の復習等を含む)を平均でどの程度行いましたか。	5,200	13,083	9,768	7,517	35,568	276	2.45
		14.6	36.8	27.5	21.1			



履修者数	142,430
回答者数	34,986

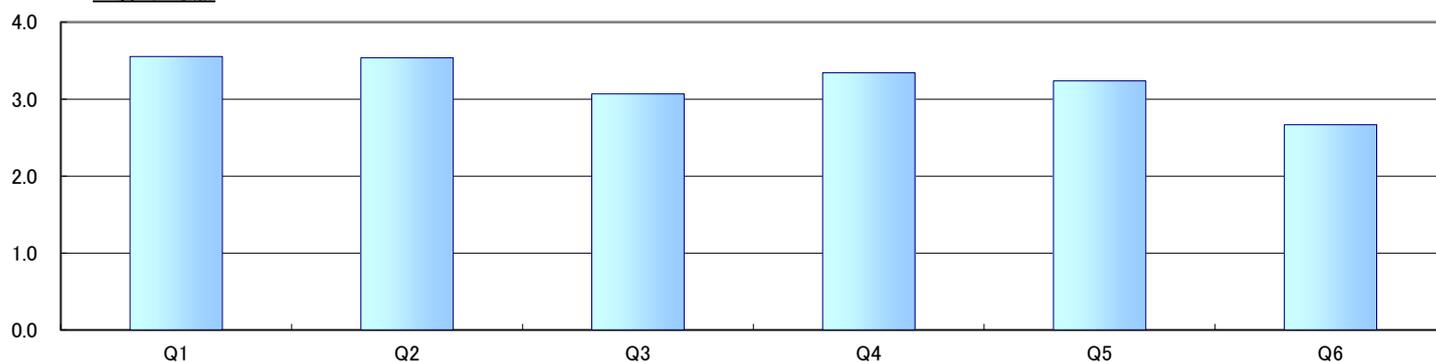
■ 共通設問								
Q	設問文	上段:度数(人)／下段:構成比(%)				有効回答	無効回答	全体平均点
		4	3	2	1			
		大いに そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない			
1	この授業は、シラバスに記載された目的に沿って行われていましたか。	17,302 49.5	16,706 47.8	686 2.0	292 0.8	34,986	0	3.46
2	この授業はよく準備・計画されていましたか。	17,356 49.6	15,873 45.4	1,378 3.9	378 1.1	34,985	1	3.44
3	この授業の難易度は適切でしたか。	難しかった	やや難しかった	やや易しかった	易しかった	34,984	2	3.03
		8,928 25.5	19,034 54.4	6,140 17.6	882 2.5			
4	教員の説明はわかりやすかったですか。	12,895 36.9	18,009 51.5	3,119 8.9	958 2.7	34,981	5	3.22
		9,532 27.2	21,428 61.3	3,348 9.6	673 1.9			
5	あなたはこの授業のシラバスに記載された到達目標に到達したと思いますか。	9,532 27.2	21,428 61.3	3,348 9.6	673 1.9	34,981	5	3.14
6	あなたはこの授業1コマ(90分)につき、予習・復習(レポート・発表資料作成、図書館やインターネットでの情報収集、ノートや配布資料の復習等を含む)を平均でどの程度行いましたか。	2時間以上	1~2時間	30分~1時間	30分未満	34,710	276	2.44
		5,043 14.5	12,690 36.6	9,595 27.6	7,382 21.3			



履修者数	7,245
回答者数	858

■ 共通設問								
Q	設問文	上段:度数(人)／下段:構成比(%)				有効回答	無効回答	全体平均点
		4	3	2	1			
		大いに そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない			
1	この授業は、シラバスに記載された目的に沿って行われていましたか。	495	348	10	5	858	0	3.55
		57.7	40.6	1.2	0.6			
2	この授業はよく準備・計画されていましたか。	490	342	22	4	858	0	3.54
		57.1	39.9	2.6	0.5			
3	この授業の難易度は適切でしたか。	難しかった	やや難しかった	やや易しかった	易しかった	858	0	3.07
		204	516	130	8			
		23.8	60.1	15.2	0.9			
4	教員の説明はわかりやすかったですか。	361	437	52	8	858	0	3.34
		42.1	50.9	6.1	0.9			
5	あなたはこの授業のシラバスに記載された到達目標に到達したと思いますか。	276	518	55	9	858	0	3.24
		32.2	60.4	6.4	1.0			
6	あなたはこの授業1コマ(90分)につき、予習・復習(レポート・発表資料作成、図書館やインターネットでの情報収集、ノートや配布資料の復習等を含む)を平均でどの程度行いましたか。	2時間以上	1~2時間	30分~1時間	30分未満	858	0	2.67
		157	393	173	135			
		18.3	45.8	20.2	15.7			

全体平均点



## 2022年度後期 授業改善のためのアンケート 集計結果

### 1. 各学部・研究科における実施科目 (WEB方式)

…各学部・研究科においてあらかじめ決定したアンケート実施予定科目に対する実施の割合

(注)

- \* 履修者数は、2023年2月1日現在。
- \* 科目数には、前期開講科目及び履修者ゼロの科目は含まない。

#### 【参考】

アンケート回答期間	2022年12月12日(月)～2023年1月29日(日)
コメント入力期間	2023年1月30日(月)～2023年2月8日(水)
結果公開期間	2023年2月9日(木)～2024年3月31日(日)

#### (1) 全体

	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
合計	2,439	2,138	87.66%	128,295	22,636	17.64%

#### (2) 学部別

学部	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
理一	438	430	98.17%	21,966	6,052	27.55%
理二	274	253	92.34%	12,601	1,598	12.68%
薬	105	92	87.62%	6,623	4,263	64.37%
工	322	295	91.61%	19,371	1,696	8.76%
工二	0	0	-	0	0	-
理工	708	622	87.85%	41,113	5,362	13.04%
先進工	175	146	83.43%	9,509	1,016	10.68%
経営	255	217	85.10%	13,069	2,351	17.99%
合計	2,277	2,055	90.25%	124,252	22,338	17.98%

## 2022年度後期 授業改善のためのアンケート 集計結果

## (3) 学部学科別

学部学科	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
理一 教養	213	207	97.18%	7,651	2,192	28.65%
理一 数学	40	39	97.50%	1,976	730	36.94%
理一 物理	36	36	100.00%	2,540	634	24.96%
理一 化学	31	31	100.00%	2,549	605	23.73%
理一 応数	38	38	100.00%	1,898	541	28.50%
理一 応物	46	45	97.83%	2,837	818	28.83%
理一 応化	34	34	100.00%	2,515	532	21.15%
理二 教養	120	105	87.50%	4,418	540	12.22%
理二 数学	69	66	95.65%	2,924	457	15.63%
理二 物理	47	44	93.62%	2,588	343	13.25%
理二 化学	38	38	100.00%	2,671	258	9.66%
薬	28	28	100.00%	3,494	2,548	72.93%
薬 教養	57	44	77.19%	1,279	262	20.48%
薬 薬	12	12	100.00%	1,063	824	77.52%
薬 創薬	8	8	100.00%	787	629	79.92%
工 教養	75	66	88.00%	4,245	505	11.90%
工 建築	68	62	91.18%	3,301	325	9.85%
工 工化	44	43	97.73%	3,571	236	6.61%
工 電工	51	47	92.16%	3,095	213	6.88%
工 経工	0	0	-	0	0	-
工 機工	47	41	87.23%	2,923	191	6.53%
工 情工	37	36	97.30%	2,236	226	10.11%
工二 教養	0	0	-	0	0	-
工二 建築	0	0	-	0	0	-
工二 電工	0	0	-	0	0	-
工二 経工	0	0	-	0	0	-
理工 教養	308	275	89.29%	11,323	1,822	16.09%
理工 数学	49	44	89.80%	2,024	240	11.86%
理工 物理	40	38	95.00%	3,278	681	20.77%
理工 情報	33	30	90.91%	1,907	92	4.82%
理工 応生	35	34	97.14%	2,550	181	7.10%
理工 建築	39	31	79.49%	2,626	237	9.03%
理工 先化	37	30	81.08%	2,678	402	15.01%
理工 電情	52	42	80.77%	5,004	553	11.05%
理工 経工	37	26	70.27%	2,726	210	7.70%
理工 機工	42	37	88.10%	3,705	548	14.79%
理工 土工	36	35	97.22%	3,292	396	12.03%
先進工 教養	47	33	70.21%	1,168	154	13.18%
先進工 電シ工	43	40	93.02%	2,923	338	11.56%
先進工 マテ工	40	36	90.00%	2,598	283	10.89%
先進工 生シ工	45	37	82.22%	2,820	241	8.55%
経営 教養	92	79	85.87%	2,999	828	27.61%
経営 経営	79	64	81.01%	4,045	518	12.81%
経営 ビジ	56	50	89.29%	4,176	822	19.68%
経営 国デ	28	24	85.71%	1,849	183	9.90%
合計	2,277	2,055	90.25%	124,252	22,338	17.98%

## 2022年度後期 授業改善のためのアンケート 集計結果

## (4) 学部開講科目・授業形態別

授業形態	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
講義	1,998	1,806	90.39%	106,862	19,794	18.52%
演習	145	126	86.90%	8,359	1,317	15.76%
実験	93	89	95.70%	6,615	979	14.80%
実習	25	24	96.00%	2,154	235	10.91%
実技	0	0	-	0	0	-
卒研	16	10	62.50%	262	13	4.96%
合計	2,277	2,055	90.25%	124,252	22,338	17.98%

## (5) 研究科別

研究科	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
理研	34	27	79.41%	1,291	205	15.88%
総化研	0	0	-	0	0	-
科教研	0	0	-	0	0	-
薬研	9	3	33.33%	97	16	16.49%
工研	24	10	41.67%	595	13	2.18%
理工研	64	25	39.06%	1,704	37	2.17%
先進工研	12	11	91.67%	285	19	6.67%
経営研	14	5	35.71%	51	6	11.76%
生命研	5	2	40.00%	20	2	10.00%
火研	0	0	-	0	0	-
合計	162	83	51.23%	4,043	298	7.37%

## (6) 研究科専攻別

研究科専攻	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
理研 教養	2	2	100.00%	128	10	7.81%
理研 数学	4	3	75.00%	207	39	18.84%
理研 物理	8	4	50.00%	273	25	9.16%
理研 化学	8	7	87.50%	449	65	14.48%
理研 応数	4	4	100.00%	56	11	19.64%
理研 応物	2	2	100.00%	112	49	43.75%
理研 科教	6	5	83.33%	66	6	9.09%
総化研 総化	0	0	-	0	0	-
科教研 科教	0	0	-	0	0	-
薬研	2	1	50.00%	84	14	16.67%
薬研 教養	7	2	28.57%	13	2	15.38%
工研 教養	3	1	33.33%	48	2	4.17%
工研 建築	2	2	100.00%	18	3	16.67%
工研 工化	5	0	0.00%	169	0	0.00%
工研 電工	4	2	50.00%	128	2	1.56%
工研 経工	0	0	-	0	0	-
工研 情工	3	2	66.67%	38	2	5.26%
工研 機工	7	3	42.86%	194	4	2.06%

2022年度後期 授業改善のためのアンケート 集計結果

理工研 教養	9	2	22.22%	280	3	1.07%
理工研 数学	4	0	0.00%	78	0	0.00%
理工研 物理	5	2	40.00%	120	2	1.67%
理工研 情報	6	5	83.33%	145	6	4.14%
理工研 応生	4	1	25.00%	175	2	1.14%
理工研 建築	5	3	60.00%	81	3	3.70%
理工研 先化	7	4	57.14%	278	6	2.16%
理工研 電工	4	3	75.00%	134	6	4.48%
理工研 経工	3	0	0.00%	84	0	0.00%
理工研 機工	12	1	8.33%	230	3	1.30%
理工研 土工	5	4	80.00%	99	6	6.06%
理工研 火科	0	0	-	0	0	-
先進工研 教養	4	4	100.00%	151	9	5.96%
先進工研 電シ工	4	3	75.00%	36	4	11.11%
先進工研 マテ工	4	4	100.00%	98	6	6.12%
先進工研 生シ工	0	0	-	0	0	-
経営研 教養	0	0	-	0	0	-
経営研 経営	14	5	35.71%	51	6	11.76%
経営研 技経	0	0	-	0	0	-
生命研 教養	1	0	0.00%	1	0	0.00%
生命研 生命	4	2	50.00%	19	2	10.53%
火研 火科	0	0	-	0	0	-
合計	162	83	51.23%	4,043	298	7.37%

(7) 研究科開講科目・授業形態別

授業形態	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
講義	151	81	53.64%	3,941	296	7.51%
演習	4	1	25.00%	90	1	1.11%
実験	0	0	-	0	0	-
実習	0	0	-	0	0	-
実技	0	0	-	0	0	-
卒研	7	1	14.29%	12	1	8.33%
合計	162	83	51.23%	4,043	298	7.37%

## 2. 全授業科目における実施科目 (WEB方式)

… 全授業科目に対する実施の割合

(注)

- \* 履修者数は、2023年2月1日現在。
- \* 科目数には、前期開講科目及び履修者ゼロの科目は含まない。

## 【参考】

アンケート回答期間	2022年12月12日(月)～2023年1月29日(日)
コメント入力期間	2023年1月30日(月)～2023年2月8日(水)
結果公開期間	2023年2月9日(木)～2024年3月31日(日)

## (1) 全体

	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
合計	4,919	2,138	43.46%

## (2) 学部別

学部	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
理一	660	430	65.15%
理二	430	253	58.84%
薬	266	92	34.59%
工	446	295	66.14%
工二	2	0	0.00%
理工	962	622	64.66%
先進工	229	146	63.76%
経営	347	217	62.54%
合計	3,342	2,055	61.49%

## 2022年度後期 授業改善のためのアンケート 集計結果

## (3) 学部学科別

学部学科	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
理一 教養	298	207	69.46%
理一 数学	62	39	62.90%
理一 物理	56	36	64.29%
理一 化学	60	31	51.67%
理一 応数	62	38	61.29%
理一 応物	61	45	73.77%
理一 応化	61	34	55.74%
理二 教養	195	105	53.85%
理二 数学	94	66	70.21%
理二 物理	66	44	66.67%
理二 化学	75	38	50.67%
薬	45	28	62.22%
薬 教養	68	44	64.71%
薬 薬	111	12	10.81%
薬 創薬	42	8	19.05%
工 教養	151	66	43.71%
工 建築	80	62	77.50%
工 工化	54	43	79.63%
工 電工	57	47	82.46%
工 経工	0	0	-
工 機工	56	41	73.21%
工 情工	48	36	75.00%
工二 教養	0	0	-
工二 建築	0	0	-
工二 電工	0	0	-
工二 経工	2	0	0.00%
理工 教養	400	275	68.75%
理工 数学	71	44	61.97%
理工 物理	55	38	69.09%
理工 情報	48	30	62.50%
理工 応生	49	34	69.39%
理工 建築	52	31	59.62%
理工 先化	54	30	55.56%
理工 電情	69	42	60.87%
理工 経工	59	26	44.07%
理工 機工	57	37	64.91%
理工 土工	48	35	72.92%
先進工 教養	51	33	64.71%
先進工 電シ工	55	40	72.73%
先進工 マテ工	54	36	66.67%
先進工 生シ工	69	37	53.62%
経営 教養	106	79	74.53%
経営 経営	114	64	56.14%
経営 ビジ	80	50	62.50%
経営 国デ	47	24	51.06%
合計	3,342	2,055	61.49%

## (4) 学部開講科目・授業形態別

授業形態	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
講義	2,369	1,806	76.23%
演習	217	126	58.06%
実験	118	89	75.42%
実習	45	24	53.33%
実技	91	0	0.00%
卒研	502	10	1.99%
合計	3,342	2,055	61.49%

## (5) 研究科別

研究科	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
理研	466	27	5.79%
総化研	0	0	-
科教研	0	0	-
薬研	168	3	1.79%
工研	100	10	10.00%
理工研	473	25	5.29%
先進工研	210	11	5.24%
経営研	135	5	3.70%
生命研	25	2	8.00%
火研	0	0	-
合計	1,577	83	5.26%

## (6) 研究科専攻別

研究科専攻	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
理研 教養	4	2	50.00%
理研 数学	64	3	4.69%
理研 物理	95	4	4.21%
理研 化学	126	7	5.56%
理研 応数	57	4	7.02%
理研 応物	55	2	3.64%
理研 科教	65	5	7.69%
総化研 総化	0	0	-
科教研 科教	0	0	-
薬研	161	1	0.62%
薬研 教養	7	2	28.57%

2022年度後期 授業改善のためのアンケート 集計結果

工研 教養	20	1	5.00%
工研 建築	23	2	8.70%
工研 工化	9	0	0.00%
工研 電工	12	2	16.67%
工研 経工	1	0	0.00%
工研 情工	18	2	11.11%
工研 機工	17	3	17.65%
理工研 教養	21	2	9.52%
理工研 数学	45	0	0.00%
理工研 物理	39	2	5.13%
理工研 情報	32	5	15.63%
理工研 応生	61	1	1.64%
理工研 建築	49	3	6.12%
理工研 先化	28	4	14.29%
理工研 電工	76	3	3.95%
理工研 経工	29	0	0.00%
理工研 機工	43	1	2.33%
理工研 土工	34	4	11.76%
理工研 火科	16	0	0.00%
先進工研 教養	4	4	100.00%
先進工研 電シ工	73	3	4.11%
先進工研 マテ工	59	4	6.78%
先進工研 生シ工	74	0	0.00%
経営研 教養	0	0	-
経営研 経営	38	5	13.16%
経営研 技経	97	0	0.00%
生命研 教養	1	0	0.00%
生命研 生命	24	2	8.33%
火研 火科	0	0	-
合計	1,577	83	5.26%

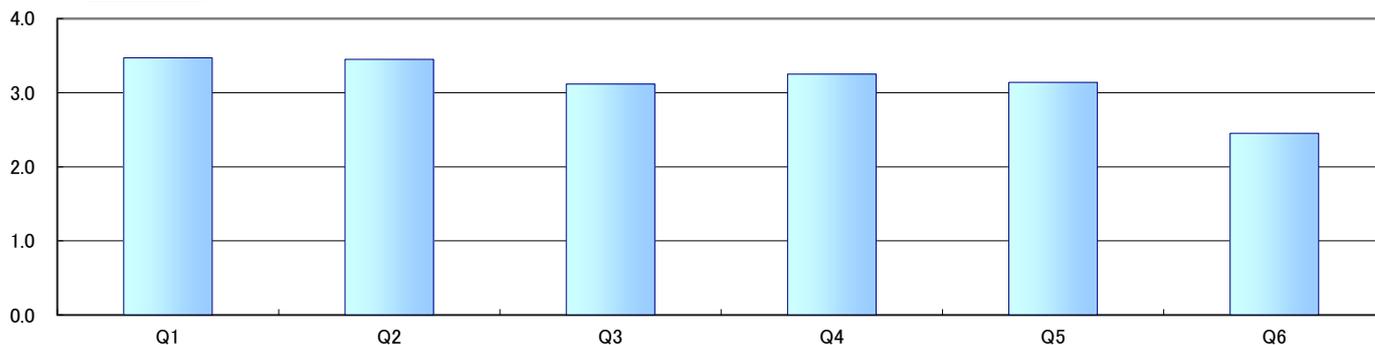
(7) 研究科開講科目・授業形態別

授業形態	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
講義	461	81	17.57%
演習	217	1	0.46%
実験	0	0	-
実習	9	0	0.00%
実技	2	0	0.00%
卒研	888	1	0.11%
合計	1,577	83	5.26%

履修者数	128,295
回答者数	22,636

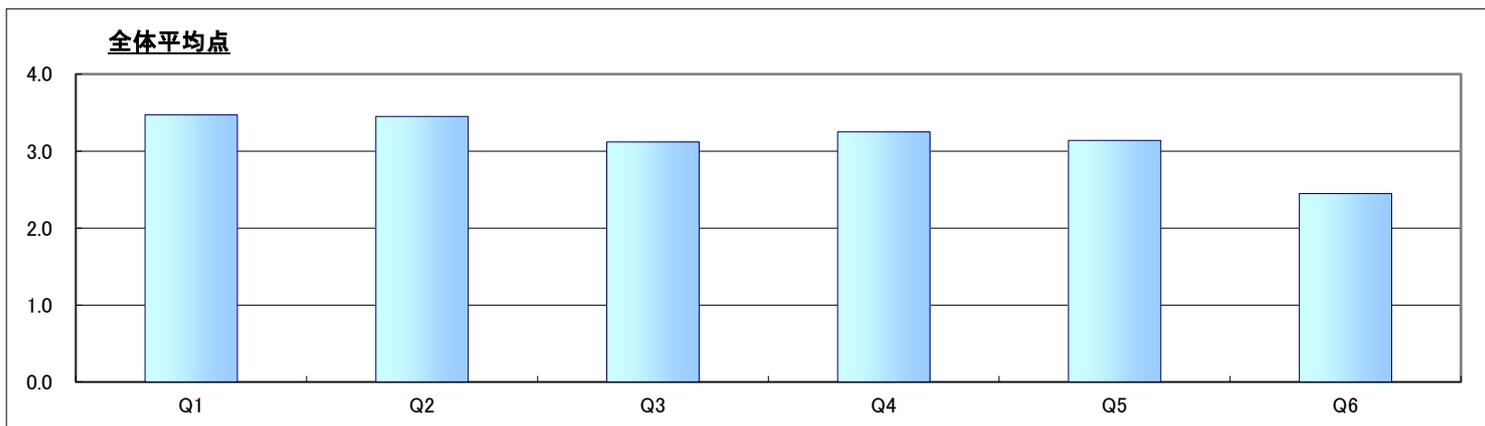
■ 共通設問								
Q	設問文	上段:度数(人)／下段:構成比(%)				有効回答	無効回答	全体平均点
		4 大いに そう思う	3 そう思う	2 そう 思わない	1 全くそう 思わない			
1	この授業は、シラバスに記載された目的に沿って行われていましたか。	11,494	10,507	440	195	22,636	0	3.47
		50.8	46.4	1.9	0.9			
2	この授業はよく準備・計画されていましたか。	11,588	9,933	838	277	22,636	0	3.45
		51.2	43.9	3.7	1.2			
3	この授業の難易度は適切でしたか。	難しかった	やや難しかった	やや易しかった	易しかった	22,636	0	3.12
		6,579	12,488	3,210	359			
4	教員の説明はわかりやすかったですか。	8,763	11,376	1,913	584	22,636	0	3.25
		38.7	50.3	8.5	2.6			
5	あなたはこの授業のシラバスに記載された到達目標に到達したと思いますか。	6,498	13,265	2,410	463	22,636	0	3.14
		28.7	58.6	10.6	2.0			
6	あなたはこの授業1コマ(90分)につき、予習・復習(レポート・発表資料作成、図書館やインターネットでの情報収集、ノートや配布資料の復習等を含む)を平均でどの程度行いましたか。	2時間以上	1～2時間	30分～1時間	30分未満	22,622	14	2.45
		3,550	8,124	5,954	4,994			
		15.7	35.9	26.3	22.1			

全体平均点



履修者数	124,252
回答者数	22,338

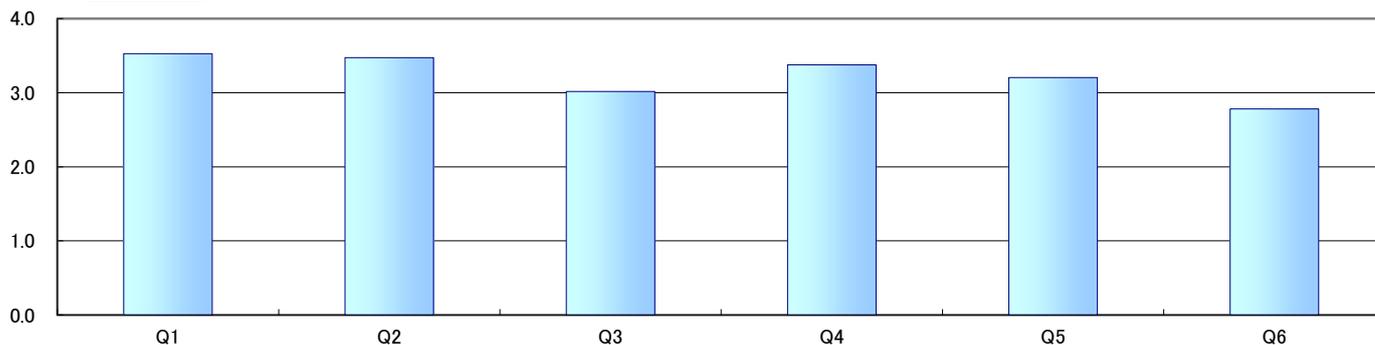
■ 共通設問								
Q	設問文	上段:度数(人)／下段:構成比(%)				有効回答	無効回答	全体平均点
		4	3	2	1			
		大いに そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない			
1	この授業は、シラバスに記載された目的に沿って行われていましたか。	11,324 50.7	10,389 46.5	433 1.9	192 0.9	22,338	0	3.47
2	この授業はよく準備・計画されていましたか。	11,420 51.1	9,827 44.0	817 3.7	274 1.2	22,338	0	3.45
3	この授業の難易度は適切でしたか。	6,520 29.2	12,298 55.1	3,166 14.2	354 1.6	22,338	0	3.12
4	教員の説明はわかりやすかったですか。	8,627 38.6	11,233 50.3	1,899 8.5	579 2.6	22,338	0	3.25
5	あなたはこの授業のシラバスに記載された到達目標に到達したと思いますか。	6,401 28.7	13,093 58.6	2,388 10.7	456 2.0	22,338	0	3.14
6	あなたはこの授業1コマ(90分)につき、予習・復習(レポート・発表資料作成、図書館やインターネットでの情報収集、ノートや配布資料の復習等を含む)を平均でどの程度行いましたか。	3,480 15.6	7,988 35.8	5,907 26.5	4,950 22.2	22,325	13	2.45



履修者数	4,043
回答者数	298

■ 共通設問								
Q	設問文	上段:度数(人)／下段:構成比(%)				有効回答	無効回答	全体平均点
		4 大いに そう思う	3 そう思う	2 そう 思わない	1 全くそう 思わない			
1	この授業は、シラバスに記載された目的に沿って行われていましたか。	170 57.0	118 39.6	7 2.3	3 1.0	298	0	3.53
2	この授業はよく準備・計画されていましたか。	168 56.4	106 35.6	21 7.0	3 1.0	298	0	3.47
3	この授業の難易度は適切でしたか。	59 19.8	190 63.8	44 14.8	5 1.7	298	0	3.02
4	教員の説明はわかりやすかったですか。	136 45.6	143 48.0	14 4.7	5 1.7	298	0	3.38
5	あなたはこの授業のシラバスに記載された到達目標に到達したと思いますか。	97 32.6	172 57.7	22 7.4	7 2.3	298	0	3.20
6	あなたはこの授業1コマ(90分)につき、予習・復習(レポート・発表資料作成、図書館やインターネットでの情報収集、ノートや配布資料の復習等を含む)を平均でどの程度行いましたか。	70 23.6	136 45.8	47 15.8	44 14.8	297	1	2.78

全体平均点



## 調査票

<全学共通版>

東京理科大学  
(学部学生用)

※本調査票に「学科独自アンケート調査票」が挟み込まれている方は、併せて回答してください。

# 2022 年度 卒業予定者対象 アンケート調査

このアンケート調査は、今後の東京理科大学における教育内容のさらなる改善、質的向上・保証に資することや、各学部・学科の方針（ポリシー）に基づいて編成されたカリキュラムにより必要な知識・能力を身に付けることができたかなど、学修成果の確認を目的として、卒業を間近に控えた皆さん（今年度4年生〔薬学部薬学科は6年生〕）に対して行うものです。ご協力をお願いいたします。

- ・回答は全て別紙のマークシートに記入してください。
- ・記入には必ず HB 以上の黒鉛筆かシャープペンシルを使用してください。
- ・回答を訂正する場合は、消しゴムできれいに消し、消しくずを取り除いてください。
- ・下の 良い例 のように、濃く正しくマークしてください。

良い例 ●      悪い例 ○ ⊙ ⊗ ⊘ ⊙ ⊙

### <個人情報の取扱いについて>

- ・回答内容（個人情報）は、本学における学修成果の確認、教育改善のための分析に活用します。
- ・本調査の集計は外部機関に取扱いを委託し、回答はすべて統計的に処理しますので、個人が特定されることや、それによって不利益が生じることはありません。
- ・集計結果は、教育 DX 推進センターHP 等で公開する予定です。

### <問合せ先>

教育 DX 推進センター事務局（学務部学務課）

以下の問1～11の内容について、当てはまるものを選んで、マークシートにマーク、または、自由記述欄に記入してください。

### 方針（ポリシー）について

問1 所属する学部学科の方針（卒業認定・学位授与の方針 [ディプロマ・ポリシー]、教育課程編成・実施の方針 [カリキュラム・ポリシー]）を知っていますか？

- ① ポリシーの存在を知っていて、内容も知っている
- ② ポリシーの存在は知っているが、内容は知らない
- ③ ポリシーの存在を知らない

問2 問1で①を選んだ方にお聞きします。

所属する学部学科では、ポリシーで示されている達成目標に必要な授業や環境が用意されていたと思いますか？

- ① そう思う
- ② ややそう思う
- ③ あまりそう思わない
- ④ そう思わない
- ⑤ わからない

## 学修時間について

問3 授業1コマ(90分)あたり、予習・復習を平均でどの程度行いましたか？

自身が最も学修に時間を費やしていたと考える時期の平均学修時間について、以下の※1に記載の年次・区分ごとに、最も当てはまるものを1つずつ選んでください。

- ① 30分未満
- ② 30分以上 60分未満
- ③ 60分以上 90分未満
- ④ 90分以上 120分未満
- ⑤ 120分以上 150分未満
- ⑥ 150分以上 180分未満
- ⑦ 180分以上

※1 1～4年次(薬学部薬学科は5、6年次を含む)の各年次における平均学修時間について、以下の[1]～[5]ごとに、最も当てはまるものを1つずつ選んでください。

[1] 一般教養科目(外国語科目を除く)

[2] 英語科目

[3] 英語以外の外国語科目

[4] 専門科目・基礎科目 講義・演習

[5] 専門科目・基礎科目 実験・実習

※2 履修していない場合はマークしないでください。

※3 予習・復習には、レポート・発表資料作成、図書館やインターネットでの情報収集、ノートや配付資料の復習、試験期間前の試験勉強を含みます。

## カリキュラムについて

問4 所属する学部学科の教育内容・カリキュラムについて、以下の区分ごとに最も当てはまるものを1つずつ選んでください。

			かなり当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない	履修していない	
1. 一般教養科目 (外国語科目を除く)		A. 興味・関心のある科目が多い	1	2	3	4	5	
		B. 成長を実感できる科目が多い	1	2	3	4	5	
		C. 熱心に取り組んだ	1	2	3	4	5	
2. 外国語科目	(1) 英語科目	A. 興味・関心のある科目が多い	1	2	3	4	5	
		B. 成長を実感できる科目が多い	1	2	3	4	5	
		C. 熱心に取り組んだ	1	2	3	4	5	
	(2) 英語以外の 外国語科目	A. 興味・関心のある科目が多い	1	2	3	4	5	
		B. 成長を実感できる科目が多い	1	2	3	4	5	
		C. 熱心に取り組んだ	1	2	3	4	5	
3. 専門科目・基礎科目	1 年次	(1) 講義・演習	A. 興味・関心のある科目が多い	1	2	3	4	5
			B. 成長を実感できる科目が多い	1	2	3	4	5
			C. 熱心に取り組んだ	1	2	3	4	5
		(2) 実験・実習	A. 興味・関心のある科目が多い	1	2	3	4	5
			B. 成長を実感できる科目が多い	1	2	3	4	5
			C. 熱心に取り組んだ	1	2	3	4	5
	2 年次	(1) 講義・演習	A. 興味・関心のある科目が多い	1	2	3	4	5
			B. 成長を実感できる科目が多い	1	2	3	4	5
			C. 熱心に取り組んだ	1	2	3	4	5
		(2) 実験・実習	A. 興味・関心のある科目が多い	1	2	3	4	5
			B. 成長を実感できる科目が多い	1	2	3	4	5
			C. 熱心に取り組んだ	1	2	3	4	5

			かなり当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない	履修していない	
3. 専門科目・基礎科目	※ 3・4年次	(1) 講義・演習	A. 興味・関心のある科目が多い	1	2	3	4	5
			B. 成長を実感できる科目が多い	1	2	3	4	5
			C. 熱心に取り組んだ	1	2	3	4	5
	(2) 実験・実習	A. 興味・関心のある科目が多い	1	2	3	4	5	
		B. 成長を実感できる科目が多い	1	2	3	4	5	
		C. 熱心に取り組んだ	1	2	3	4	5	
4. 卒業研究（ゼミ）		A. 興味・関心が持てる	1	2	3	4	5	
		B. 成長を実感できる	1	2	3	4	5	
		C. 熱心に取り組んでいる	1	2	3	4	5	
5. 教職課程に関する科目		A. 興味・関心のある科目が多い	1	2	3	4	5	
		B. 成長を実感できる科目が多い	1	2	3	4	5	
		C. 熱心に取り組んだ	1	2	3	4	5	

※薬学部薬学科の学生は、「3・4年次」を「3・4・5・6年次」と読み替えてください。

## 東京理科大学への満足度

問5 所属する学部学科が提供する教育やカリキュラム（講義、実験・実習、研究室など）に対して、どの程度満足していますか？

- ① とても満足している
- ② 満足している
- ③ あまり満足していない
- ④ まったく満足していない

問6 所属する学部学科が提供する教育やカリキュラム（講義、実験・実習、研究室など）、教員に関する以下の項目のうち、満足したものと不満だったものを上位3つまで選んでください。

- ① 英語科目の授業内容
- ② 英語以外の外国語科目の授業内容
- ③ その他の一般教養科目の授業内容
- ④ 専門科目・基礎科目の授業内容（講義及び演習）
- ⑤ 実験・実習
- ⑥ 卒業研究（研究室）
- ⑦ 教員との関わり
- ⑧ 教員の熱意
- ⑨ 教員の就職・進学支援
- ⑩ 教員の学修支援

※満足度が高いもの（満足度が低いもの）を1位から3位の順にマーク

問7 本学が提供する各種サービス・支援（奨学金、施設・設備など）にどの程度満足していますか？

- ① とても満足している
- ② 満足している
- ③ あまり満足していない
- ④ まったく満足していない

問8 本学が提供する各種サービス・支援（奨学金、施設・設備など）のうち、満足したものと不満だったものを上位3つまで選んでください。

- ① 奨学金制度
- ② 図書館
- ③ 生協
- ④ 学生食堂
- ⑤ 講義室の施設・設備
- ⑥ 研究室の施設・設備
- ⑦ 体育館・トレーニングルームの施設・設備
- ⑧ IT環境

※満足度が高いもの（満足度が低いもの）を1位から3位の順にマーク

問9 どのような時に事務の窓口を利用しましたか？

以下【利用機会（①～⑯）】のうち、満足度が高いものと満足度が低いものを上位3つまで選んでください。

【利用機会】

- ① 特になし・利用していない
- ② 教務（履修、成績、試験等）に関する事項
- ③ 教務以外（証明書発行、住所変更の届出等）に関する事項
- ④ 教職教育センターに関する事項
- ⑤ 国際交流（海外留学等）に関する事項
- ⑥ 課外活動（部活、サークル等）に関する事項
- ⑦ 奨学金に関する事項
- ⑧ 体調不良等（保健管理センター）
- ⑨ 留学生に対する支援等（留学生支援室）
- ⑩ 身体やこころの悩み等（よろず相談室）
- ⑪ 進路・就職活動に関する事項
- ⑫ セミナーハウス、研修センターに関する事項
- ⑬ 学費・実験実習等の支払い、振込用紙再発行に関する事項
- ⑭ CLASS や LETUS 等のソフト面に関する事項
- ⑮ ターミナル室や学内無線 LAN 環境等のハード面に関する事項
- ⑯ 図書館に関する事項

※満足度が高いもの／満足度が低いものを1位から3位の順にマーク

また、満足度が高いもの、満足度が低いものを選んだ理由を、次ページの【満足度が高い理由（㉔～①）】、【満足度が低い理由（㉔～①）】に記載の選択肢から、それぞれ選んでください。

【満足度が高い理由】

- ① 窓口の開室時間が適切だった
- ② 窓口の場所が分かりやすかった
- ③ 説明が分かりやすかった
- ④ 適切なアドバイスを得られた、質問が解決した
- ⑤ 職員の対応が良い（態度、言葉遣い等）
- ⑥ 職員による連絡や対応が迅速だった
- ⑦ 教員と職員、または職員（部署）間の連携・情報共有が十分だった
- ⑧ CLASS や掲示板の掲載内容が分かりやすかった
- ⑨ CLASS や掲示板に情報が掲載されるのが迅速だった

※満足度が高い理由を1位から3位の順にマーク

【満足度が低い理由】

- ① 窓口の開室時間が不適切だった
- ② 窓口の場所が分かりにくかった
- ③ 説明が分かりにくかった
- ④ 適切なアドバイスを得られなかった、質問が解決しなかった
- ⑤ 職員の対応が悪い（態度、言葉遣い等）
- ⑥ 職員による連絡や対応が遅かった
- ⑦ 教員と職員、または職員（部署）間の連携・情報共有不足
- ⑧ CLASS や掲示板の掲載内容が分かりにくかった
- ⑨ CLASS や掲示板に情報が掲載されるのが遅い

※満足度が低い理由を1位から3位の順にマーク

問 10 総合すると本学にどの程度満足していますか？

- ① とても満足している
- ② 満足している
- ③ あまり満足していない
- ④ まったく満足していない

問 11 本学の教育・各種サービス・事務の窓口に関して、印象に残っている良かった点や改善すべき点、本学で学ぶ後輩たちへのメッセージなどを具体的に、マークシートの自由記述欄に記入してください。

全学共通設問は以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

学科独自アンケートを実施している学科の学生は、引き続きアンケートに回答してください。

## 2022 年度卒業予定者対象アンケート結果について

### [実施概要]

- ・実施期間：2022 年 12 月初旬～2023 年 3 月 19 日（学位記・修了証書授与式）
- ・回答方法：マークシート方式（紙媒体） ※薬学部は試験的に Qualtrics（Web）で実施
- ・実施状況：回答率 90.5%（回答者数 3,145 人／調査対象人数 3,474 人）（2021 年度 86.0%）  
（回答者数の内訳：マークシート 2,984 人、Web 161 人）
- ・マークシート回答の電子化：株式会社教育ソフトウェアに委託

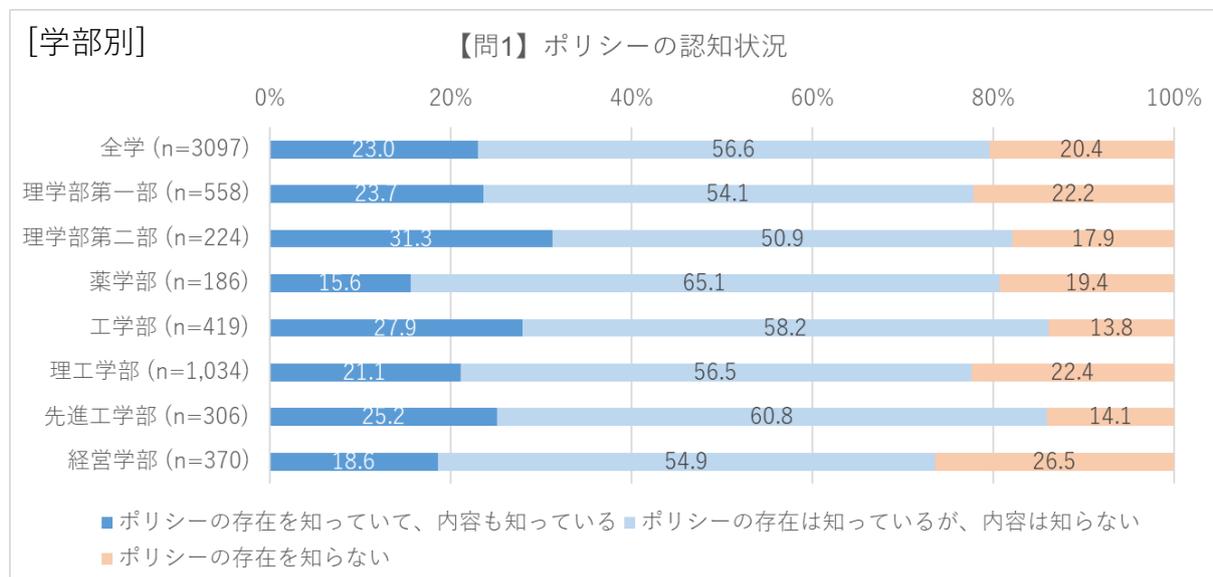
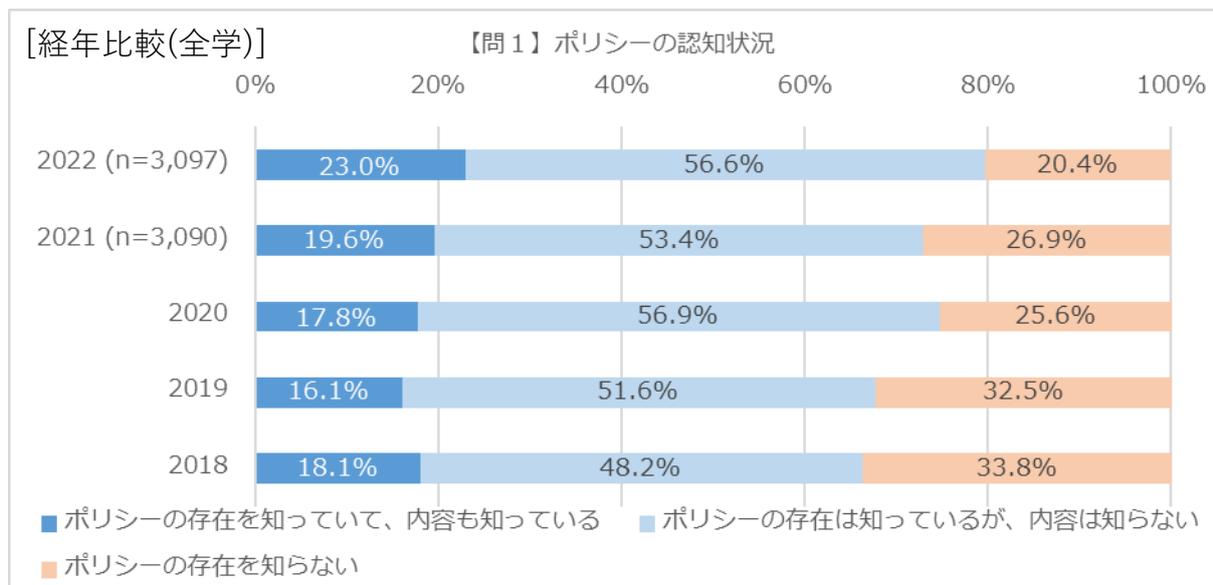
### [結果]

#### 1. 3 つの方針について

【問 1】 所属する学部学科の方針（卒業認定・学位授与の方針 [ディプロマ・ポリシー]、教育課程編成・実施の方針 [カリキュラム・ポリシー]）を知っていますか？

#### 【概要】

「ポリシーの認知度」は昨年度から上昇し、79.6%（昨年度 73.0%）となっており、「ポリシーの内容まで知っている」学生の割合が 23.0%（昨年度 19.6%）に微増している。

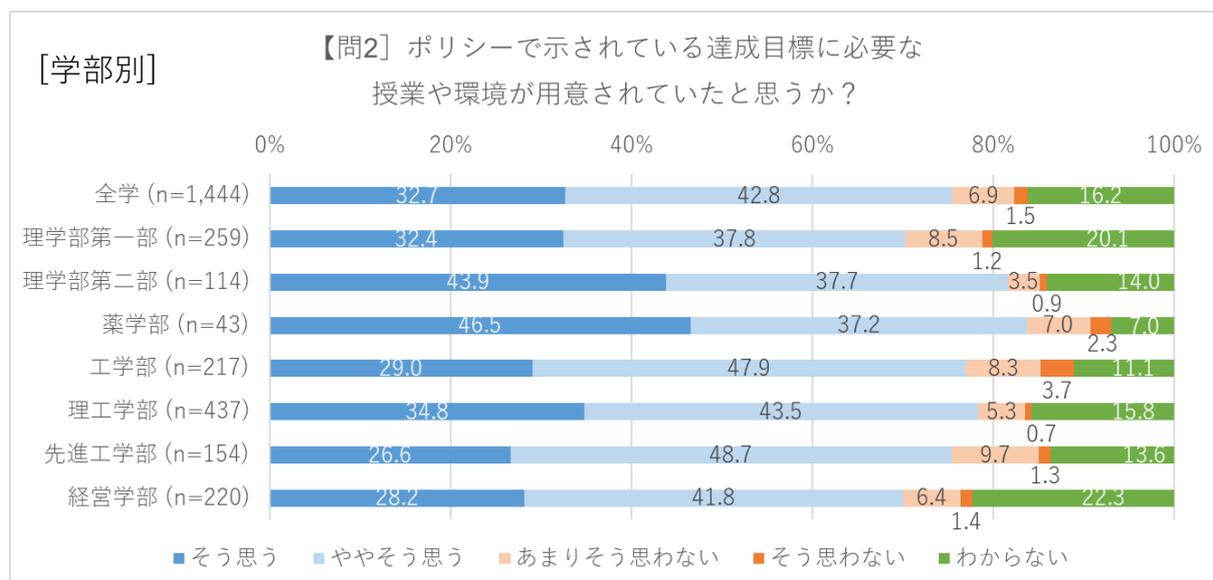
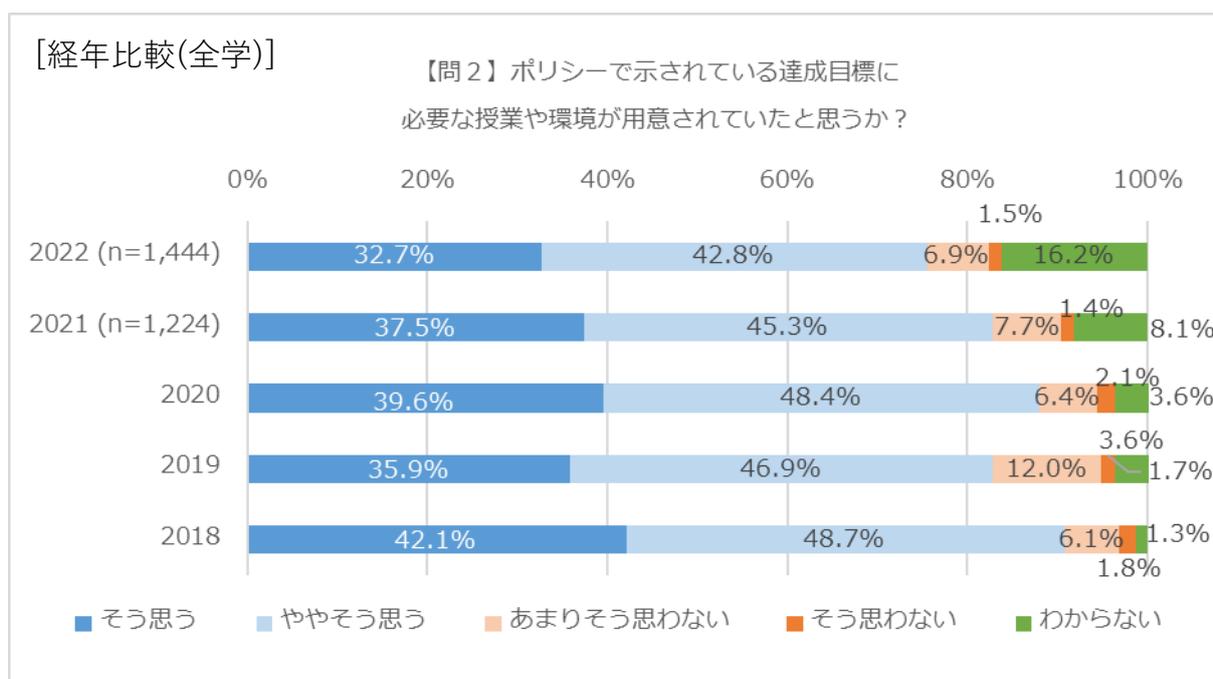


【問2】 問1で「① ポリシーの存在を知っていて、内容も知っている」を選んだ方にお聞きします。  
所属する学部学科では、ポリシーで示されている達成目標に必要な授業や環境が用意されていたと思いますか？

【概要】

「ポリシーの内容を知っている」学生の80%近く（75.5%）が、ポリシーで示している達成目標に必要な授業や環境が用意されていると感じていることから、一定程度ポリシーに従ったカリキュラムを提供できていると言える。

また、「わからない」ご回答した割合が年々増加し、今年度は16.2%を占めたことから、ポリシーとカリキュラムの関連を学生に周知することが、今後の課題になる。

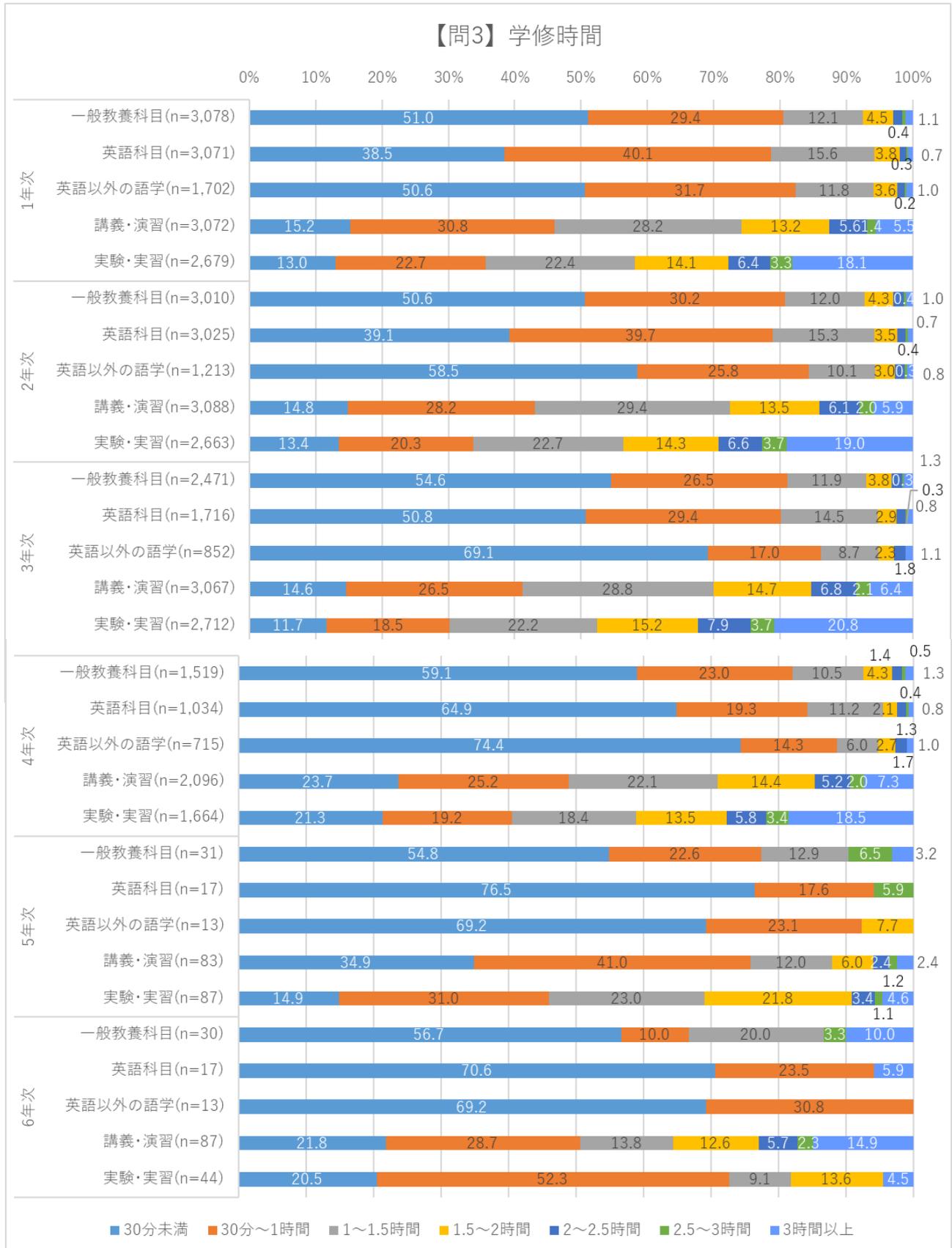


## 2. 学修時間について

【問3】授業1コマ(90分)あたり、予習・復習を平均でどの程度行いましたか？  
 自身が最も学修に時間を費やしていたと考える時期の平均学修時間について、年次・区分ごとに、最も当てはまるものを1つずつ選んでください。

### 【概要】

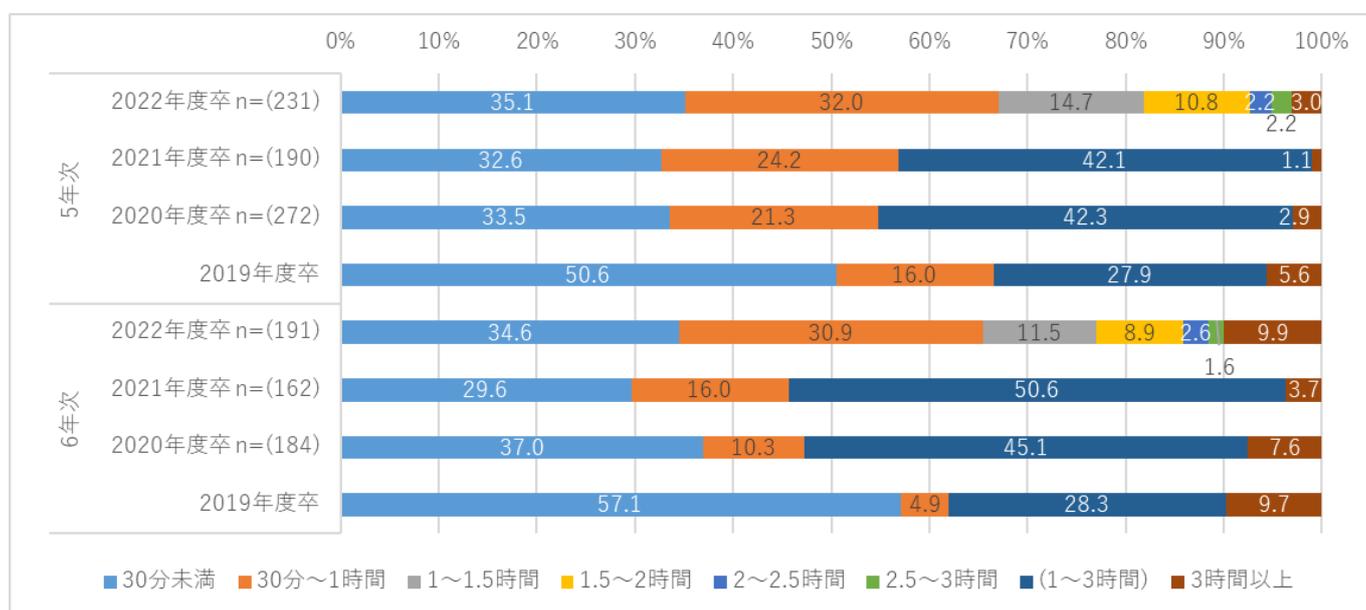
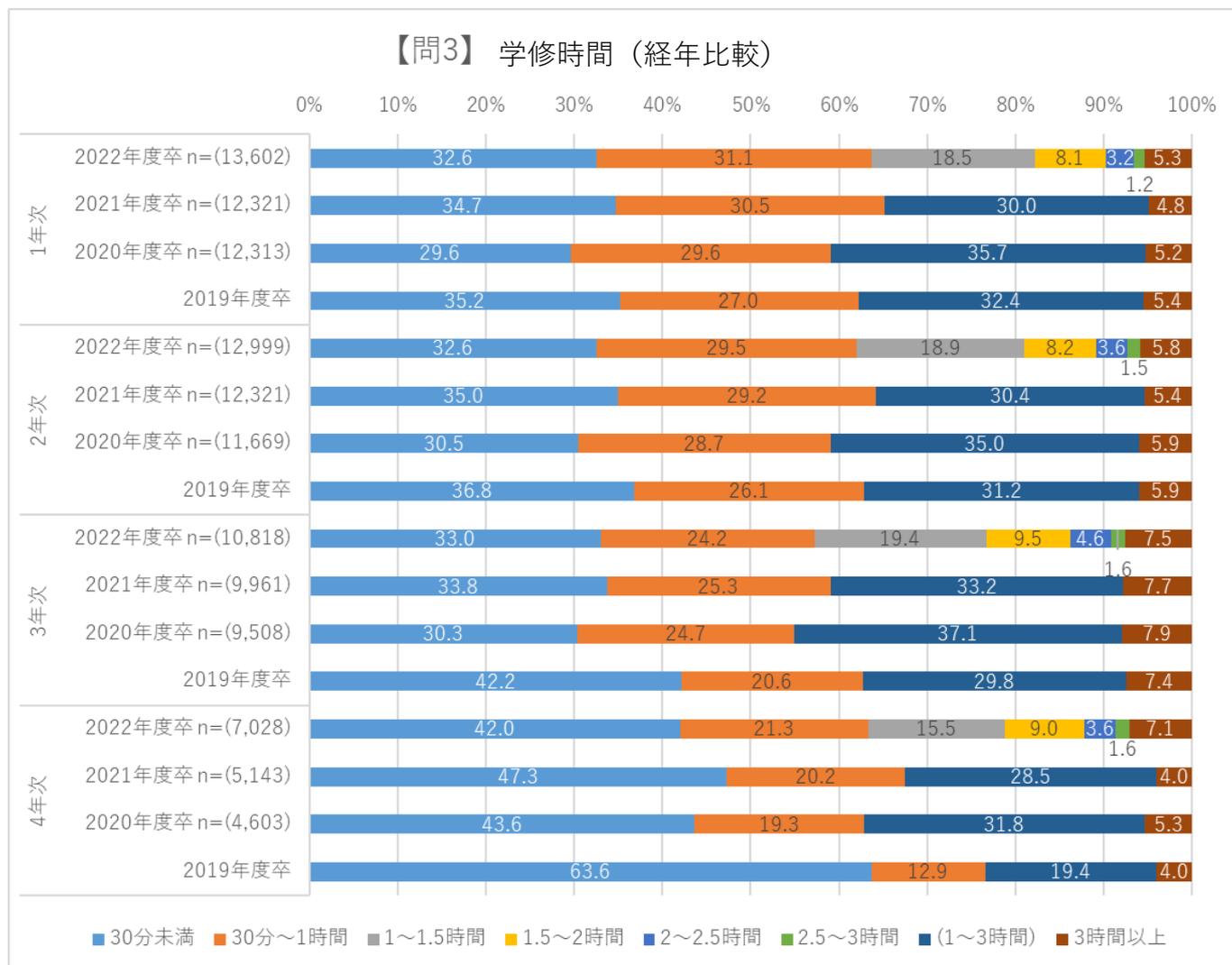
全ての学年で、専門科目の講義・演習、実験・実習においては、授業1コマ(90分)あたりの予習・復習時間は「30分～1時間」「1時間～1.5時間」とする回答割合が高く、実験・実習では、「3時間以上」の回答が約20%を占める。



<経年比較>

全ての学年において、授業1コマ（90分）あたりの予習・復習時間を「30分未満」とする回答が約30～40%となっている。

昨年度まで「1～3時間」で集計していた区分の内訳を明らかにした。内訳は、学年によらず15～20%が「1～1.5時間」、8～10%が「1.5～2時間」であった。



※「履修していない」と回答した学生は、母数に含めずに算出している。

### 3. カリキュラムについて

【問4】所属する学部学科の教育内容・カリキュラムについて、最も当てはまるものを1つずつ選んでください。

#### 【概要】

例年同様、専門分野は全般的に、講義・演習、実験・実習のいずれについても高い興味関心を持ち、成長を実感し、熱心に取り組んでいる傾向がある。特に「卒業研究（ゼミ）」のスコアが高く、卒業研究を集大成とするカリキュラムに沿って学んでいると言える。また、学年が上がるにつれて「かなり当てはまる」の割合が高くなる傾向がある。

一方で、例年同様、「英語」については「あまり当てはまらない・全く当てはまらない」の割合が、他の項目と比べて高い傾向が続いている。

	回答割合 (%)	かなり当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない	回答数(人)
1. 一般教養科目 (外国語科目を除く)	A. 興味・関心のある科目が多い	22.6	56.3	17.4	3.7	3,120
	B. 成長を実感できる科目が多い	14.5	48.8	29.7	7.0	3,118
	C. 熱心に取り組んだ	20.7	49.2	24.1	6.0	3,110
2. 外国語科目(1) 英語	A. 興味・関心のある科目が多い	11.9	40.0	36.5	11.7	3,090
	B. 成長を実感できる科目が多い	12.1	40.8	33.9	13.1	3,085
	C. 熱心に取り組んだ	17.7	44.1	28.6	9.5	3,086
2. 外国語科目(2) 英語以外の外国語科目	A. 興味・関心のある科目が多い	24.1	45.2	23.7	7.1	1,743
	B. 成長を実感できる科目が多い	20.3	44.4	26.3	9.1	1,733
	C. 熱心に取り組んだ	22.8	44.2	24.8	8.2	1,729
3. 専門科目・基礎科目 1年次	A. 興味・関心のある科目が多い	30.5	52.4	14.7	2.3	3,107
	B. 成長を実感できる科目が多い	33.9	51.1	12.9	2.1	3,110
	C. 熱心に取り組んだ	38.4	47.0	12.2	2.3	3,103
(1)講義・演習	A. 興味・関心のある科目が多い	33.3	49.8	14.3	2.6	2,657
	B. 成長を実感できる科目が多い	36.5	48.2	13.4	2.0	2,650
	C. 熱心に取り組んだ	44.4	43.6	9.7	2.3	2,647
3. 専門科目・基礎科目 2年次	A. 興味・関心のある科目が多い	32.5	52.8	12.6	2.0	3,110
	B. 成長を実感できる科目が多い	34.1	51.0	12.6	2.4	3,106
	C. 熱心に取り組んだ	38.1	46.3	13.2	2.4	3,102
(1)講義・演習	A. 興味・関心のある科目が多い	36.6	48.6	12.6	2.2	2,615
	B. 成長を実感できる科目が多い	37.5	47.4	12.8	2.3	2,610
	C. 熱心に取り組んだ	41.7	44.7	11.3	2.3	2,603
3. 専門科目・基礎科目 3・4年次	A. 興味・関心のある科目が多い	41.9	46.4	10.2	1.5	3,106
	B. 成長を実感できる科目が多い	39.6	47.7	11.2	1.6	3,103
	C. 熱心に取り組んだ	44.5	43.9	9.7	1.9	3,100
(1)講義・演習	A. 興味・関心のある科目が多い	44.6	43.4	10.2	1.8	2,663
	B. 成長を実感できる科目が多い	44.1	43.9	10.1	2.0	2,661
	C. 熱心に取り組んだ	50.3	39.2	9.0	1.6	2,657
(2)実験・実習	A. 興味・関心のある科目が多い	68.4	25.6	4.8	1.1	3,097
	B. 成長を実感できる科目が多い	68.3	25.6	4.8	1.4	3,098
	C. 熱心に取り組んだ	70.2	24.2	4.8	0.9	3,086
4. 卒業研究(ゼミ)	A. 興味・関心のある科目が多い	42.8	36.3	15.5	5.4	521
	B. 成長を実感できる科目が多い	43.3	32.9	17.6	6.1	510
	C. 熱心に取り組んだ	46.4	28.8	18.5	6.3	507
5. 教職課程に関する科目	A. 興味・関心のある科目が多い	42.8	36.3	15.5	5.4	521
	B. 成長を実感できる科目が多い	43.3	32.9	17.6	6.1	510
	C. 熱心に取り組んだ	46.4	28.8	18.5	6.3	507

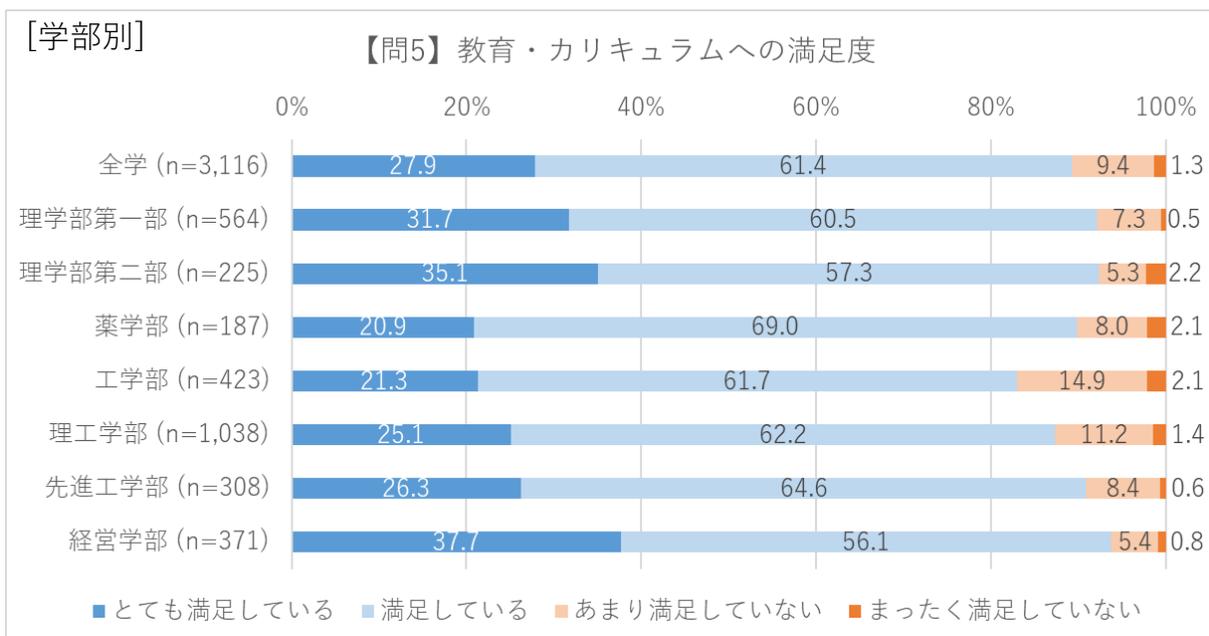
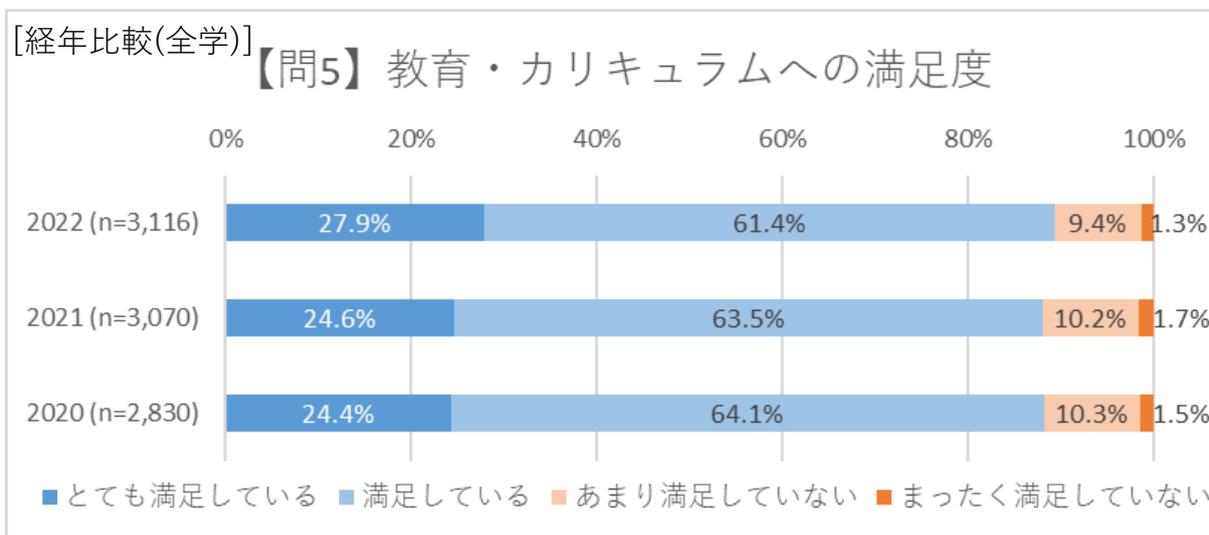
※「履修していない」と回答した学生は、母数に含めずに算出している。

#### 4. 東京理科大学への満足度 (1) 教育やカリキュラム、教員に対する満足度

【問5】所属する学部学科が提供する教育やカリキュラム（講義、実験・実習、研究室など）に対して、どの程度満足していますか。

##### 【概要】

89.3%（昨年度 88.1%）の学生が「とても満足している・満足している」と回答しており、多くの学生が教育やカリキュラムに満足していると言える。



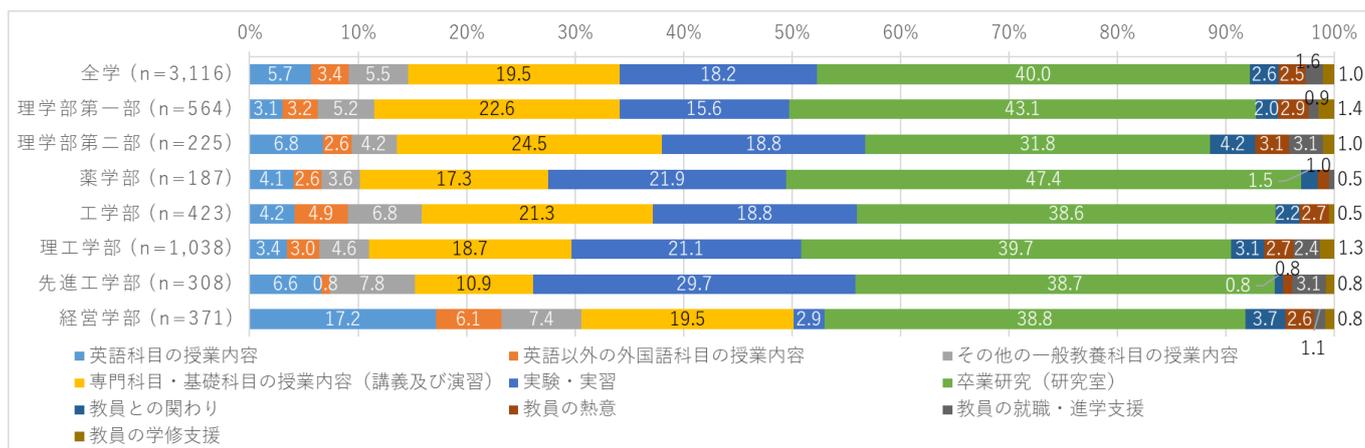
【問6】所属する学部学科が提供する教育やカリキュラム（講義、実験・実習、研究室など）、  
教員に関する以下の項目のうち、あなたが満足したものと不満だったものを上位3つまで  
選んでください。

【概要】

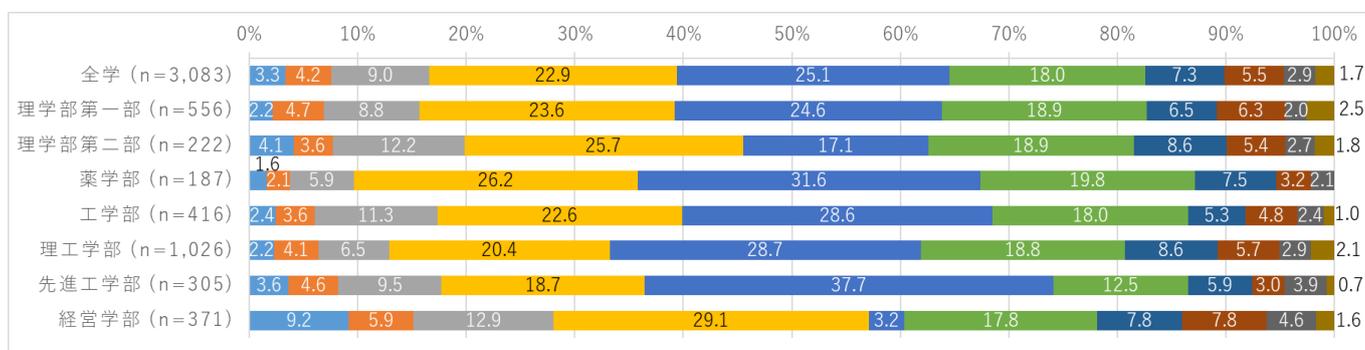
昨年度同様、特に専門分野（＜満足したもの：1位＞「卒業研究（研究室）」、＜満足したもの：1位・2位＞  
「専門・基礎科目の授業内容」、「実験・実習」）に対する満足度が高い。

一方で、＜不満だったもの：1位＞の約40%を「英語の授業内容」が占める傾向が続いている。ただし、経  
営学部では＜満足したもの：1位＞の17.2%を占めている。

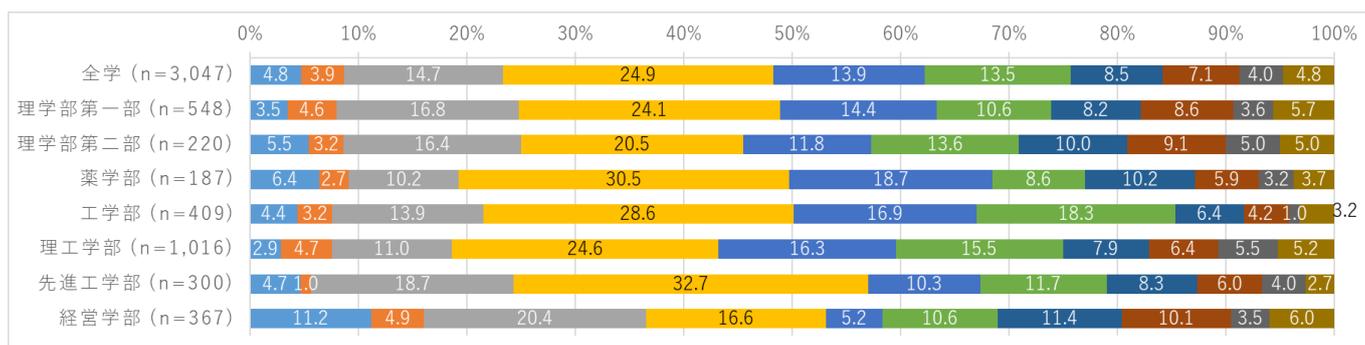
＜満足したもの：1位＞



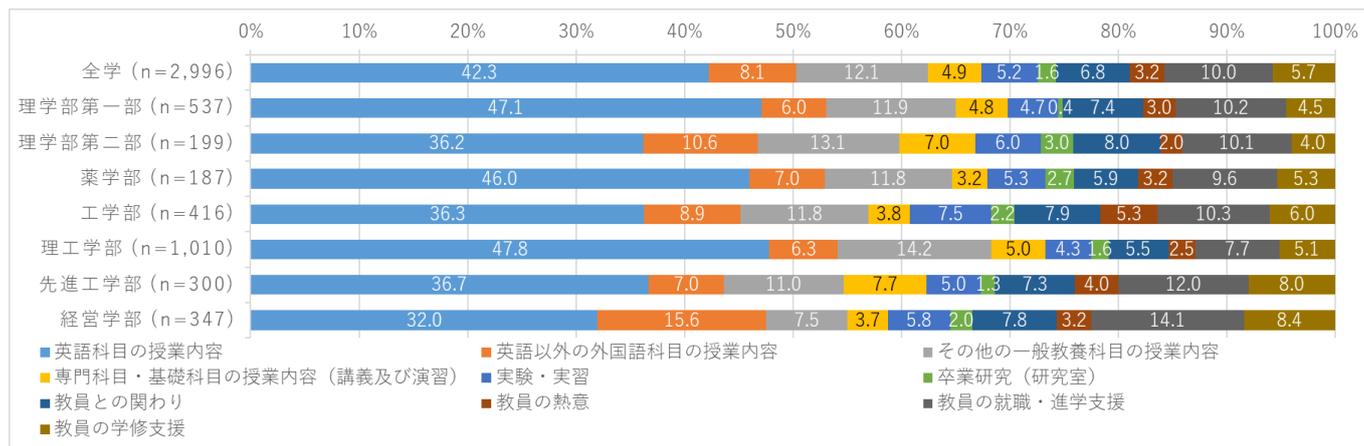
＜満足したもの：2位＞



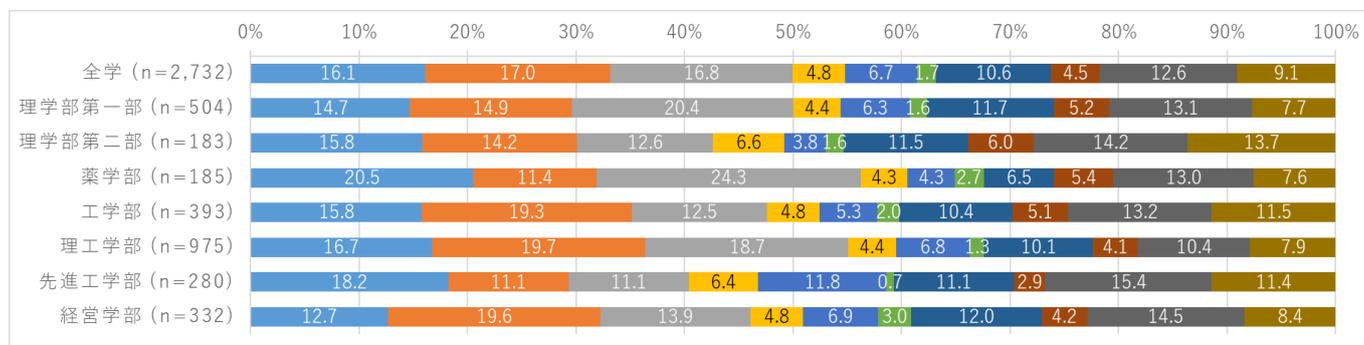
＜満足したもの：3位＞



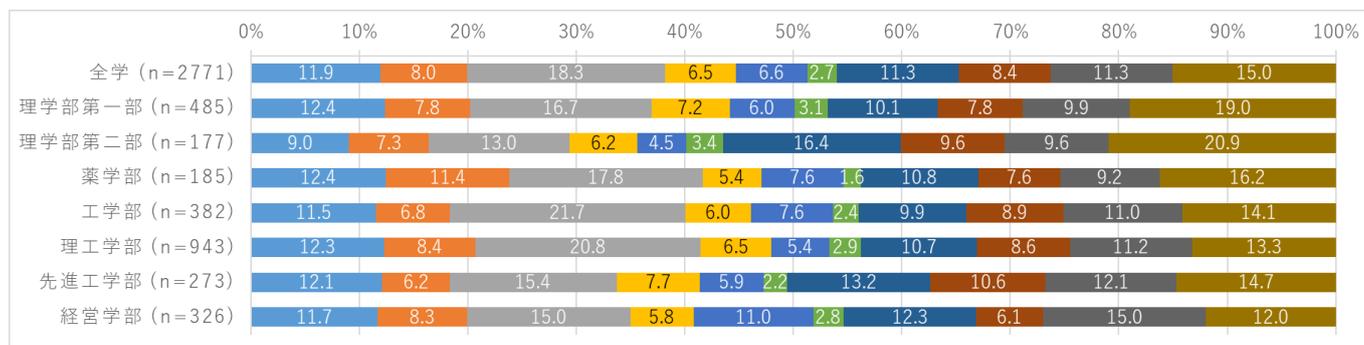
<不満だったもの：1位>



<不満だったもの：2位>



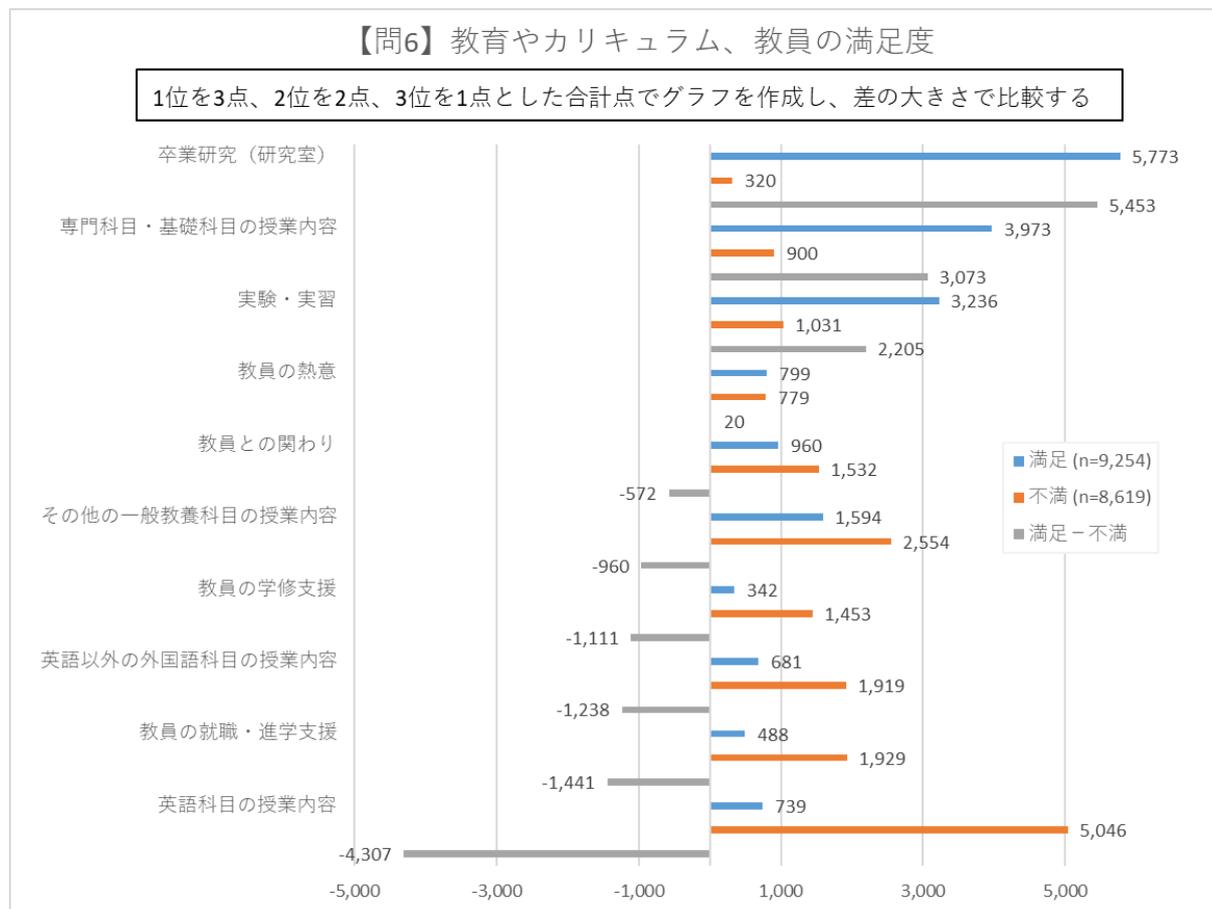
<不満だったもの：3位>



<1位を3点、2位を2点、3位を3点として差の大きさを比較>

(不満足1位は-1点、2位は-2点、3位は-3点)

「卒業研究(研究室)」「専門科目・基礎科目の授業内容」は<満足>のポイントが高く、<不満足>のポイントが低い。

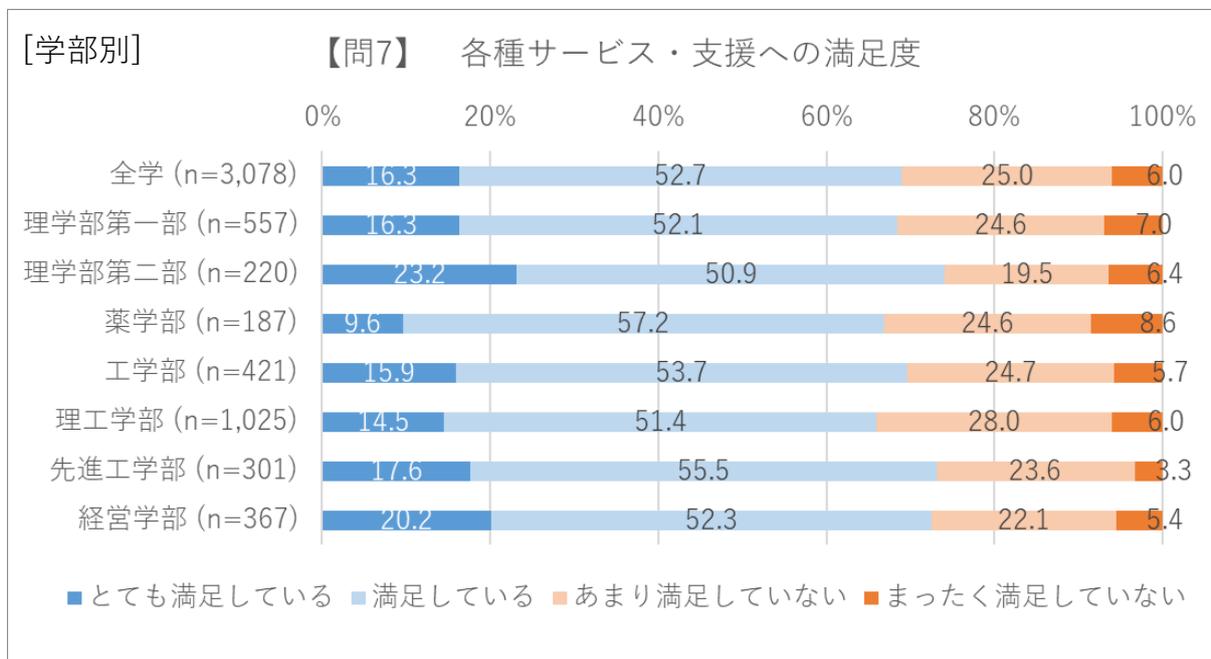
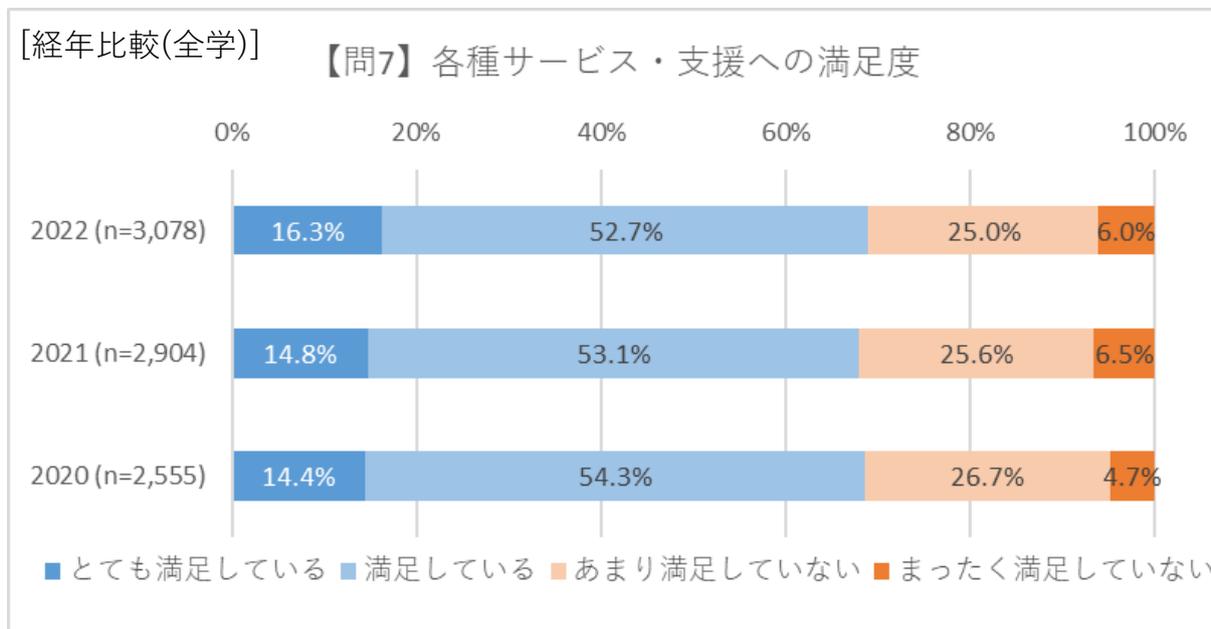


#### 4. 東京理科大学への満足度 (2) 各種サービス・支援への満足度

【問7】 本学が提供する各種サービス・支援（奨学金、施設・設備など）にどの程度満足していますか？

##### 【概要】

例年同様、70%近い学生が「各種サービス・支援」に満足している。

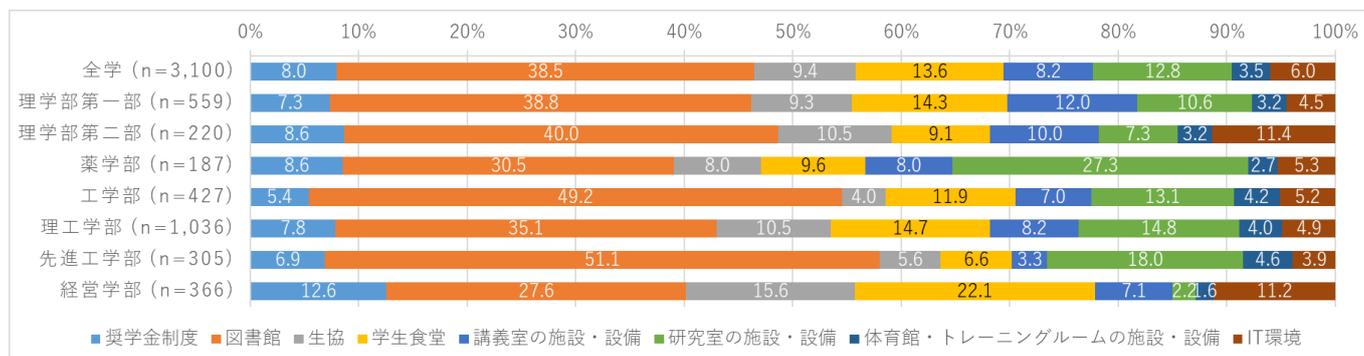


【問 8】 本学が提供する各種サービス・支援（奨学金、施設・設備など）のうち、満足したものと不満だったものを上位 3 つまで選んでください。  
 ※満足度が高いもの（満足度が低いもの）を 1 位から 3 位の順にマーク

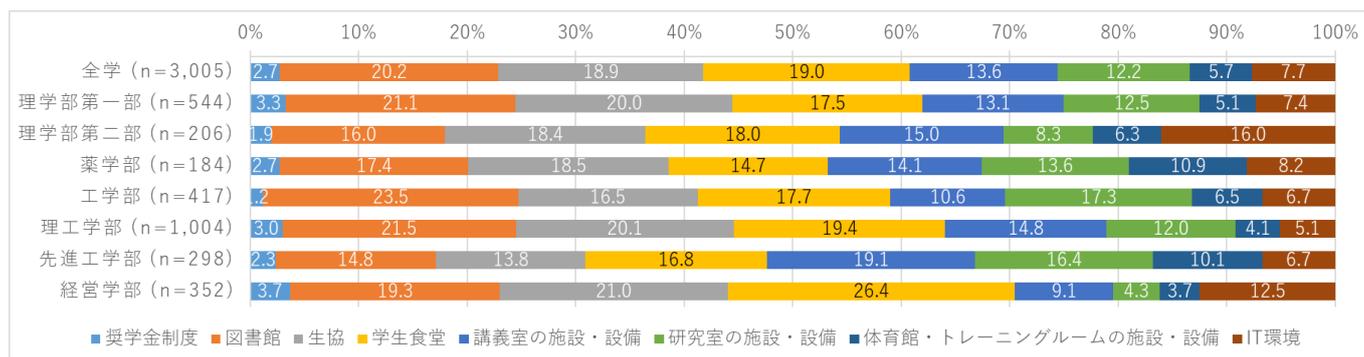
【概要】

特に、＜満足したもの：1 位＞で、図書館施設・設備に関する満足度が高い。

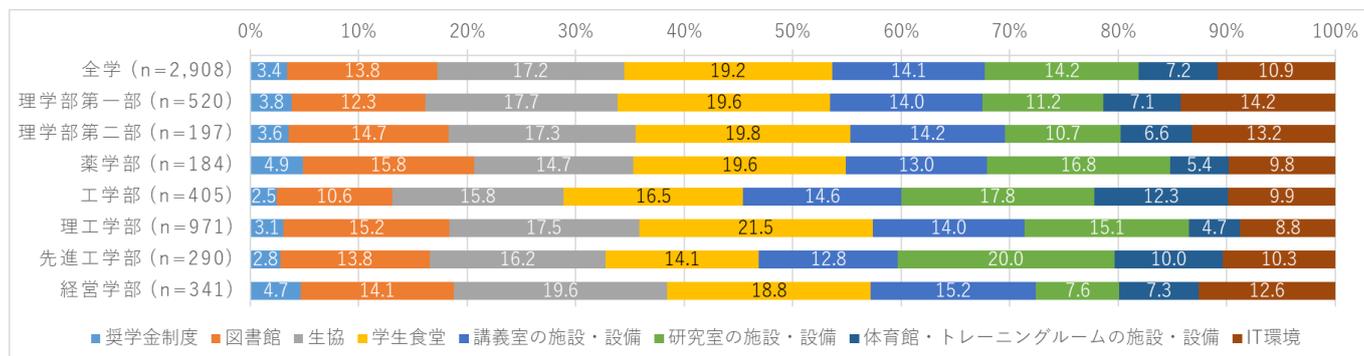
＜満足したもの：1 位＞



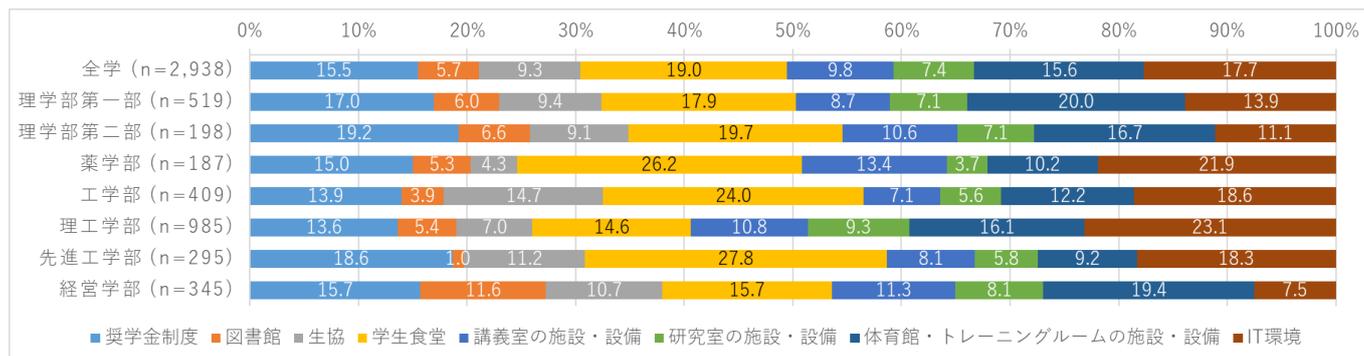
＜満足したもの：2 位＞



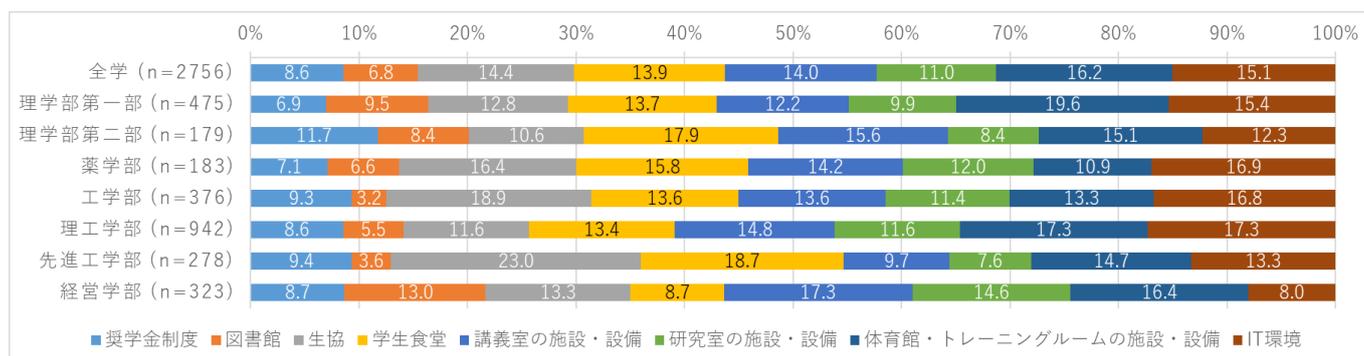
＜満足したもの：3 位＞



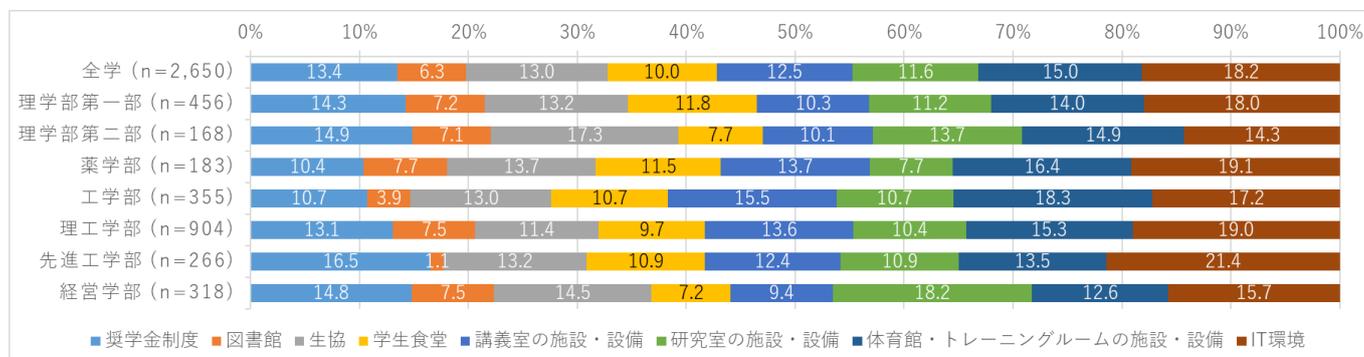
<不満だったもの：1位>



<不満だったもの：2位>



<不満だったもの：3位>

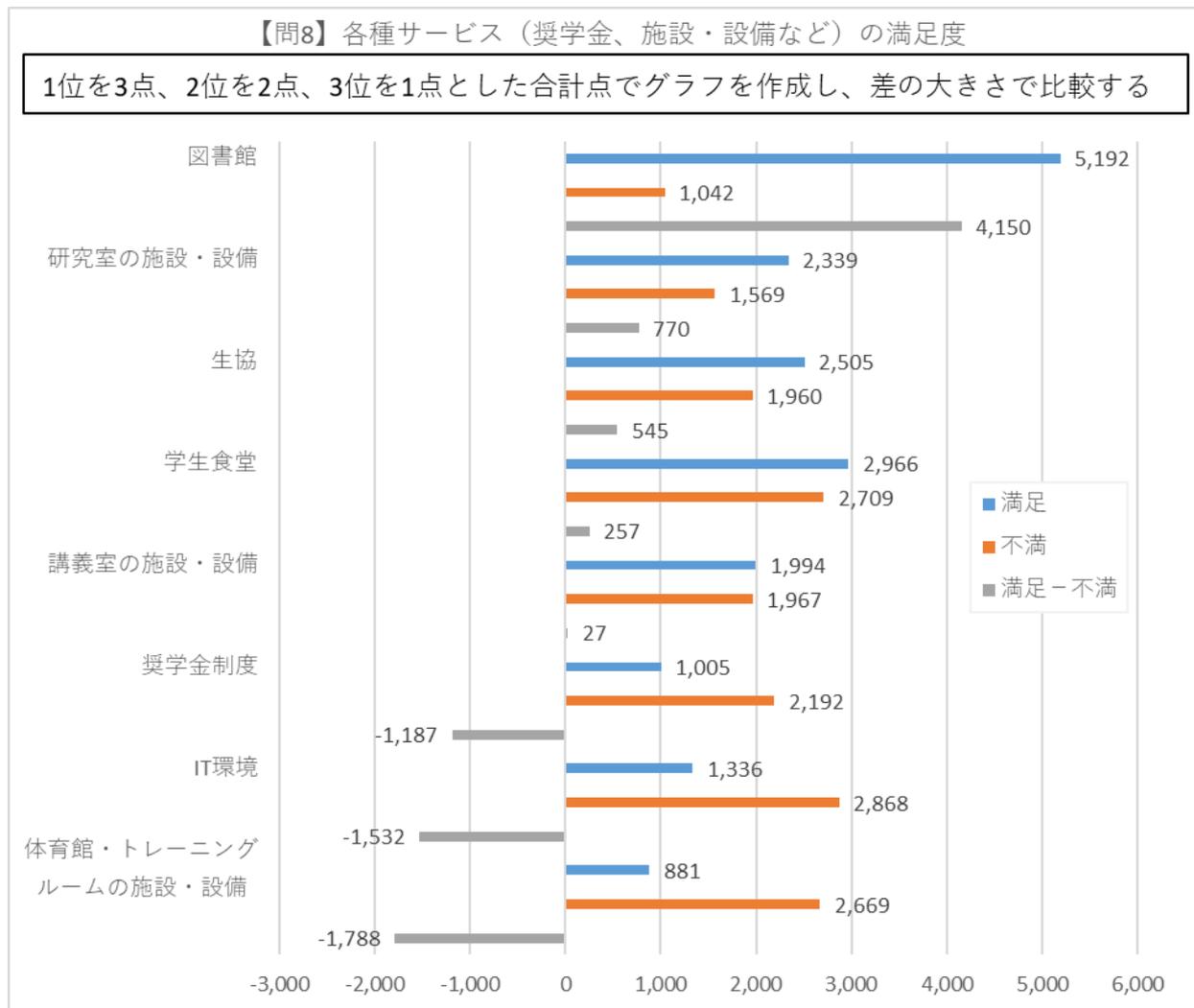


<1位を3点、2位を2点、3位を3点として差の大きさを比較>

(不満足1位は-1点、2位は-2点、3位は-3点)

【概要】

図書館施設・設備に関する満足度が高い。一方、IT環境、体育館・トレーニングルームの施設・設備は不満の方が高い傾向にある。学生食堂、講義室の施設・設備は満足・不満どちらも高い傾向であった。



#### 4. 東京理科大学への満足度 (3) 事務の窓口の満足度

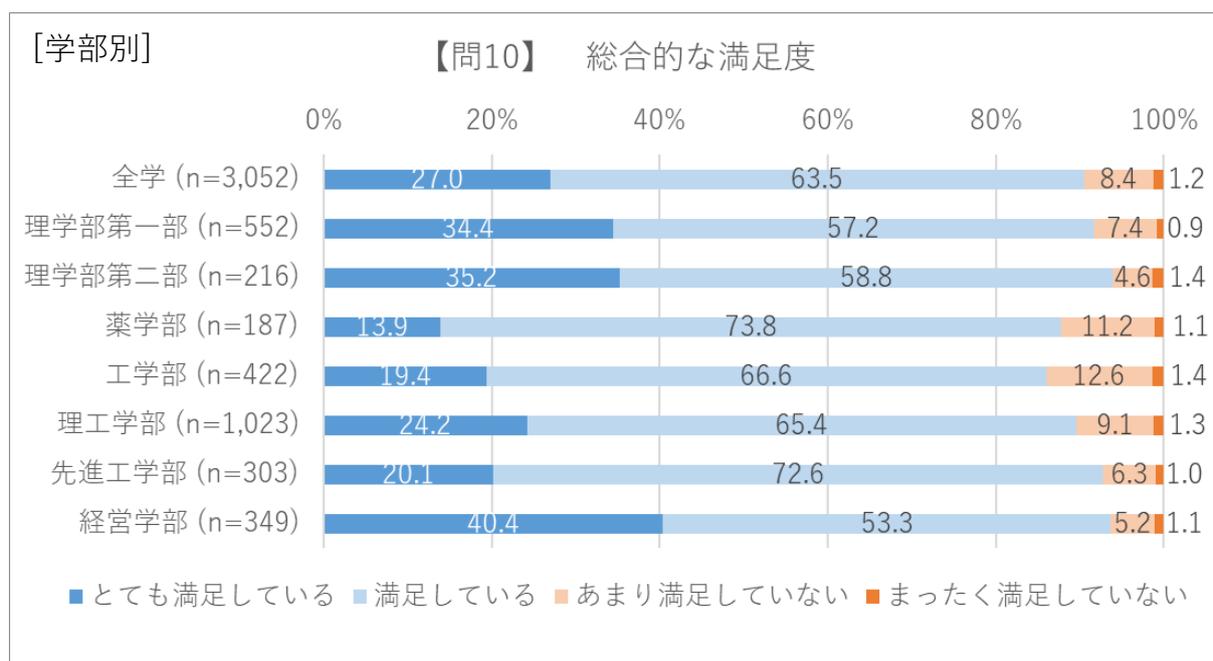
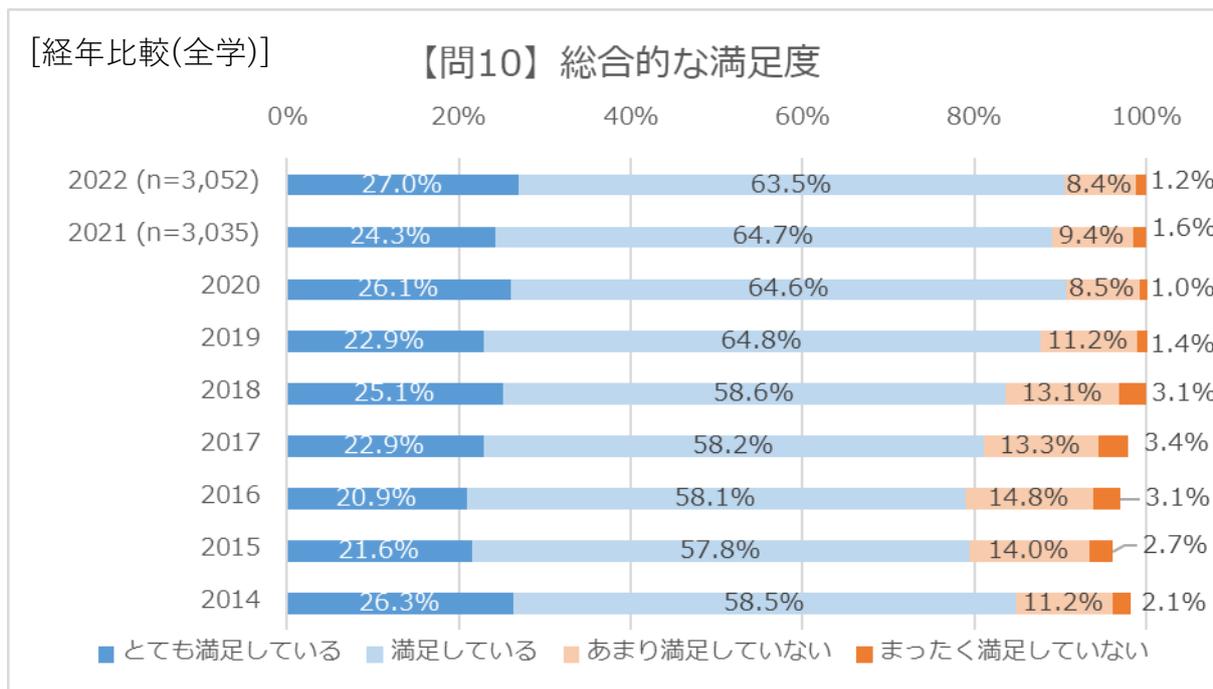
【問9】省略（事務部局長会議で報告予定）

#### 4. 東京理科大学への満足度 (4) 総合的な満足度

【問10】総合すると本学にどの程度満足していますか？

##### 【概要】

全学的に「総合的な満足度」の肯定的な回答が90.5%（昨年度89.0%）となっており、多くの学生が大学生活に肯定感をもって卒業していると言える。



以上